



国立がん研究センター
中央病院
National Cancer Center Hospital

2023年度 レジデント募集要項



- 2 沿革／設立の目的とその使命
- 4 理事長ごあいさつ
- 5 病院長ごあいさつ
- 6 国立がん研究センター中央病院の人材育成
- 7 データで見る中央病院
- 8 研修に関する情報
- 10 新専門医制度・学会認定
- 12 連携大学院制度
- 14 Physician Scientist制度
- 16 研修制度概要
- 19 研修に関するQ&A
- 20 研修課程・診療科紹介
- 155 がん専門修練医からのメッセージ
- 158 レジデントからのメッセージ
- 161 専攻医からのメッセージ
- 162 がん専門修練医募集要項
- 164 レジデント募集要項
- 166 レジデント(短期コース) 募集要項
- 168 専攻医(基幹施設型・連携施設型) 募集要項
- 170 採用試験日程
- 171 交通案内



設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それによって、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センター(2010年4月1日、独立行政法人化により名称変更)は、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。(2015年4月1日、国立研究開発法人国立がん研究センターに名称変更)



設立時の建物



外来診療棟竣工(1978年)



研究棟竣工(1981年)



東病院と次世代外科・内視鏡治療開発センター



中央病院新棟竣工(1998年)



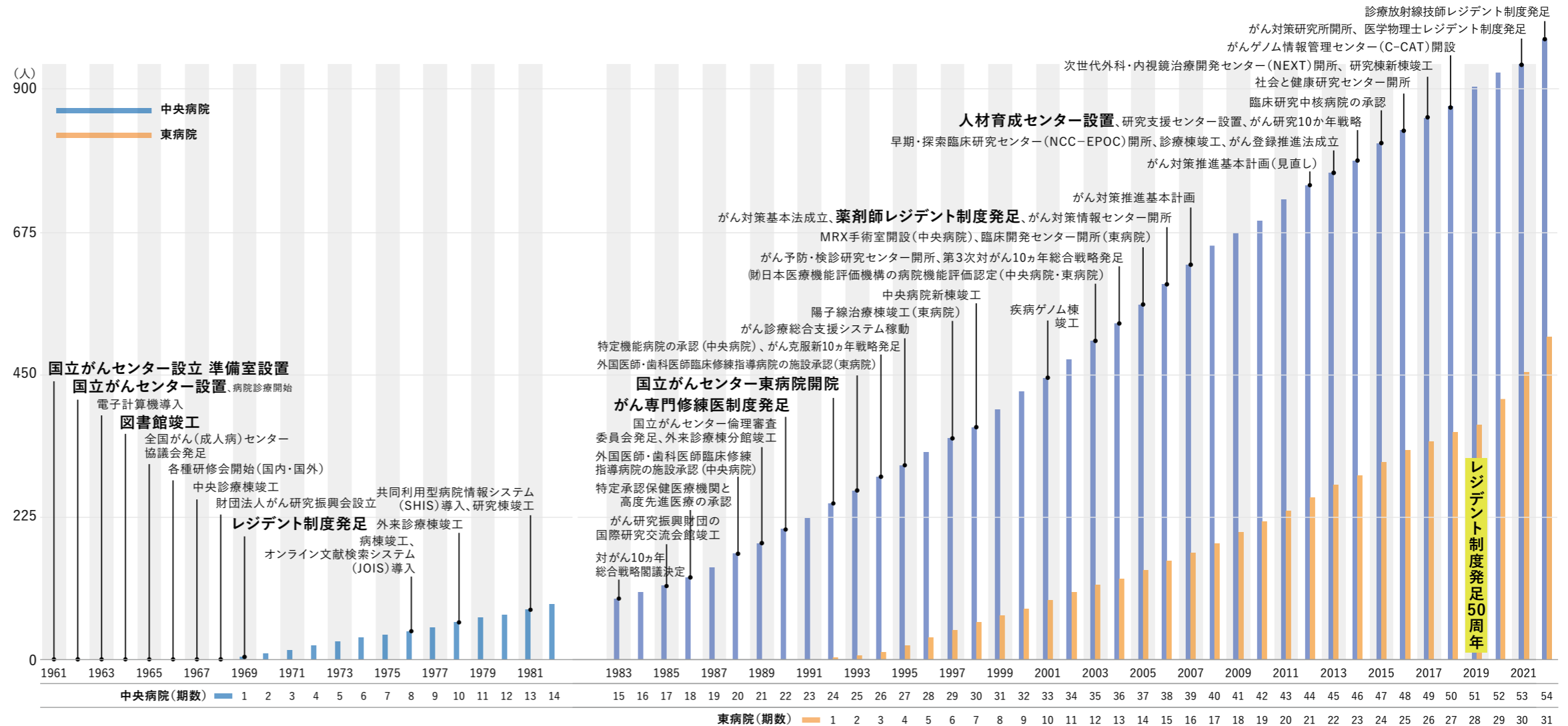
研究棟新棟竣工(2017年)



癌の文字から「疒」(ヤマイダレ)を取り除き「品」とし、これを図案化したものです。(1970年制定)

国立がん研究センターのシンボルマークの3つの輪は、(1)診療(2)研究(3)教育をあらわしています。外側の大きな輪は患者・社会との協働を意味します(2014年)。

レジデント制度50年のあゆみ



Novel, Challenge and Change All Activities for Cancer Patients ごあいさつ

国立がん研究センターは、1962年に東京築地に創設されました。以来、50年以上にわたり、わが国のがん医療の中核機関として日本のがん医療とがん研究を牽引する役割を担い続けています。

東京の築地キャンパスでは、がんの画期的な診断・治療法を実現してきた「中央病院」、がんの基礎研究に革新的な成果を挙げてきた「研究所」、がんの予防・早期発見の開発に加えて、政策提言および最新のエビデンスの迅速な普及と実装を担う「がん対策研究所」が一体となって、アカデミックセンターを形成しています。千葉県の柏キャンパスには「東病院」があり、陽子線治療棟、緩和ケア病棟などに加え、2017年5月には次世代外科・内視鏡治療開発センター（NEXT）が開設されました。中央・東両病院ともに特定機能病院として、高度な医療・医療技術の開発や研修機能が期待されています。また、築地・柏両キャンパスの病院と連携して最先端の開発研究を推進する「先端医療開発センター（EPOC）」も併設されています。最近では、個々の患者さんに最適化された医療を提供するPrecision Medicine（最適医療）を実現するために、ゲノム医療の実装に向けた体制構築にも精力的に取り組んでおり、2018年には築地・柏両キャンパスの病院が、がんゲノム医療中核拠点病院に指定され、がんゲノム情報管理センター（C-CAT）も設立されました。

教育・研修に関しても様々な取り組みを進めています。東京大学、慶應義塾大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学等との連携大学院制度を取り入れ、リサーチマインドを持ち、幅広い知見を備えた臨床医の育成を目指しています。中央病院・東病院それぞれに人材育成センターが設置されており、臨床と基礎および開発研究の双方向の連携を強化するPhysician Scientist制度も導入し、若手の医師・研究者の育成体制を一層強化しています。国立がん研究センターは、将来の日本のがん医療・がん研究を担う人材を育成するための組織として常に進化し続けています。

レジデント制度は、体系的にがん医療を学び、がん専門医を養成する制度として1969年に創設され、1990年からは高度専門的な研修を行うがん専門医制度も取り入れてきました。国立がん研究センターレジデント制度開始から50年以上が経った現在、次の50年を見据えて教育施設としての機能に磨きをかけ、これまで以上に多くのがん診療、研究に携わる方のキャリアアップや個々の能力を引き出すための人材育成に貢献し、がん医療の向上を目指したいと考えています。

本募集要項を手に入れている皆様は、私たちと同じ目標に向かい、同じ道を歩もうとされているのだと思います。がん患者さんに最適な医療を提供するために貢献されたいという皆様の思いに、センターが一丸となって応えて行きたいと考えています。がんを克服するために世界最高の技術と知識を身につけたいと努力する者が互いに協働することにより、より大きな力となり、がん克服という目標に更に近づくことが可能になると信じています。皆様の第一歩が、明日のがん医療・がん研究における大きな一歩となりますよう共に歩めることを心より願っています。

最高の診療・研究環境、そして教育病院としての経験を兼ね備えた国立がん研究センターで、リサーチマインドを兼ね備えたがん医療の専門家としての、確かな一歩を踏み出してください。



国立がん研究センター 理事長
中 釜 齊

Novel, Challenge and Change All Activities for Cancer Patients ごあいさつ

国立がん研究センター中央病院は、国立がん研究センターの一員として1962年の開設以来“社会と共同して、全ての国民に最適な医療を提供する”という理念のもと、がん診療・研究のリーディング・ホスピタルとしての役割を果たしてきました。全ての臓器がんにおいて世界に通用する質が高く、ハイボリュームな診療・研究を提供しております。

高度のがん医療の研修を、効率よく有効に行うためのレジデント制度は、体系的にがん医療を学びがんの専門医を養成する制度として1969年に発足し、50年をこえる歴史ある制度です。この間に、より高度で専門的ながん教育を提供し、研究もできるがん専門医を育成する目的で、1990年のがん専門医制度が発足しました。更には2006年に薬剤師のレジデント制度、2021年に医学物理士のレジデント制度、2022年に診療放射線技師のレジデント制度が開始されました。がんに関連する専門医の取得はもちろんのこと、慶應義塾大学、順天堂大学、慈恵医大などとの連携大学院制度もあり、レジデントやがん専門医に在籍中に学位を取得することも可能です。

国立がん研究センター中央病院での修練を受けるメリットとしては、他の施設と比べ極めて多くの症例を経験することができます。2021年度、新型コロナウイルス感染症の流行下においても、医師主導治験を含め多くの治験、特定臨床研究を行っています。内視鏡手術や先進的なロボット手術に加え、世界でもトップクラスの内視鏡センターやIVR（Interventional Radiology）センターでは、AIだけでなく全ての技術を集約しより低侵襲な医療の開発に取り組んでいます。また伝統的に高難度な血管合併切除再建を伴う手術や、マイクロサージャリーによる再建を要する手術を経験することが可能です。

更に、各領域の第一人者による充実した指導を厳しくも、家庭的な雰囲気の中、直接受けることができること、全国より集まる同じ志を持った優秀な同僚と一緒に研修できること、全国の大学病院の教授・助教授、総合病院の部長として活躍している多くの先輩と交流する機会があること、このような修練する間に得られた人間関係の蓄積は一生の財産になると信じます。

皆さんのような意欲に満ちた、優秀な人材なくしては、日本のがん医療の将来はありません。皆様方と一緒に、がん患者さんに最高の医療を提供し、そして明日のより良いがん医療を創っていきましょう。



国立がん研究センター 中央病院長
島 田 和 明



国立がん研究センター中央病院の人材育成

国立がん研究センター中央病院のレジデント制度は、国立がんセンターの開設とほぼ同時に創設され、50年以上の歴史を有する日本で最も歴史のあるがん診療に特化した医師の専門研修制度の一つです。この間に、日本のがん診療やがん研究のリーダーとなる多くの人材を輩出しています。レジデントやがん専門修練医のOB/OGは国立がん研究センターをはじめ、全国のがんセンター、大学などで活躍しており、がんに関連する多くの学会でも中心的な役割を担っています。国立がん研究センターのレジデントを修了した医師がわが国のがん医療の中枢を担っていると云っても過言ではありません。

現在では3年間、2年間のレジデントコースに加えて、がん専門修練医コース、レジデント短期コース、そして連携大学院コース、高度技能医コースと多岐にわたる研修プログラムを開発しています。どのコースを選択しても、やる気さえあれば、非常に充実した研修や研究を行うことができます。がんに関連する専門医の取得はもちろんのこと、慶應義塾大学、順天堂大学、慈恵医大、長崎大学などとの連携大学院制度もあり、レジデントやがん専門修練医在籍中に行った研究成果に基づき、学位を取得することも可能です。

国立がん研究センター中央病院での研修の特徴は、圧倒的な症例数の多さ、各領域の第一人者による充実した指導、最新の診療・研究設備などが揃っていること、などです。これらすべてが研修をするうえで非常に重要であることは言うまでもありませんが、さらに重要なことは全国より集まる同じ志を持った優秀な同僚と一緒に研修できることです。国立がん研究センター中央病院で研修することにより、最先端の治療技術や知識を身につけることは当然ですが、ここで得られる指導医、先輩、同僚、後輩などとの人間関係は一生の大きな財産になります。

国立がん研究センター中央病院には最先端の設備、豊富な症例、日本有数の研究環境、有能な指導者など他施設の追従を許さない研修環境があります。国立がん研究センター中央病院はNewsweek誌による世界の優秀な病院ランキング「World's Best Specialized Hospitals 2021/2022」Oncology部門で、日本で1位に選出されています。将来、がん診療やがん研究に従事しようと考えているのであれば、当院以上の研修を受けられる環境はないと確信しています。是非、一人でも多くの若い医師の皆さんに当院と一緒に研修していただき、将来の日本のがん診療、がん研究をけん引する人材になってもらいたいと思っています。

人材育成センター長
大江裕一郎



データで見る中央病院 2021年4月～2022年3月末時点

患者ケア

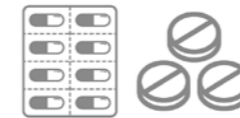
559,123人
総患者数

578床
病床数

19,978件
内視鏡手術件数
(検査・処置・治療を含む)

31,319件
放射線治療件数

2,341人
がん検診者数



49,129件
外来化学療法数
(1日約170人ほどの診療を実施)

5,456件
手術件数
(手術室17室)

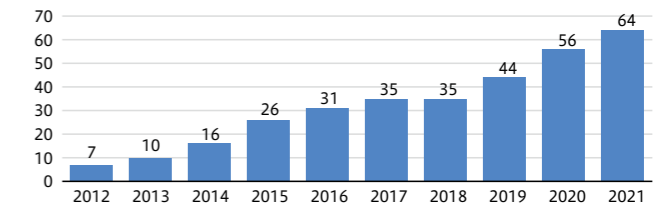


開発相別の総治験課題数と国際共同治験総数



研究

First in Human (FIH) 試験実施件数



全国の中でも対応の多いがん

- 口腔・咽頭がん 365人
 - 乳がん 732人
 - 肺がん 1,204人
 - 食道がん 418人
 - 胃がん 553人
 - 大腸がん 711人
 - 胆のう・胆管がん 99人
 - 膵臓がん 371人
 - 子宮体がん 134人
 - 骨軟部がん 204人
 - 皮膚がん 209人
 - 悪性リンパ腫 254人
- 〔院内がん登録全国集計 2020〕より

職員数



約1,600人
うち、医師の数
246人

753人
看護師の数
うち専門看護師16人
認定看護師43人

相談件数

15,943件
相談支援センター相談総件数
電話相談 3,758件

約44,000人
サポートセンター
利用人数

3,176件
セカンドオピニオン件数
オンラインセカンドオピニオン
213件

診療・教育カンファレンス数

約2,200件

レジデント数
(専攻医含む)
184人

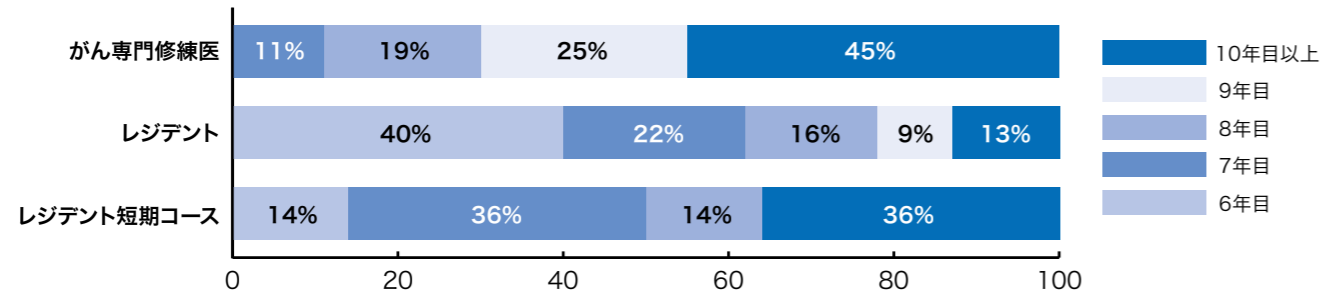


Newsweek誌による世界の優秀な病院ランキング「World's Best Specialized Hospitals 2022」のOncology部門で選出されています。



研修に関連する情報

入職時卒後年数 (2022年4月在籍者)

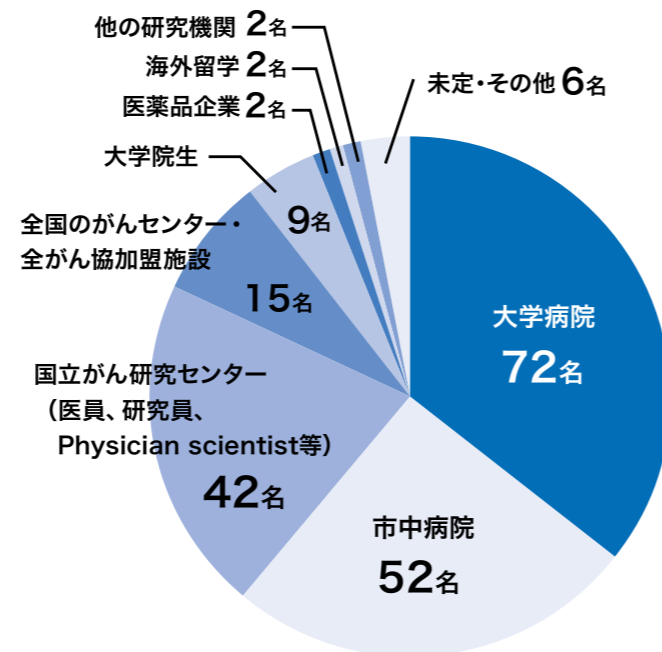


研修期間中の業績 (2019年度~2021年度修了者)

	2019年度	2020年度	2021年度
論文 (英文)	19本	45本	32本
論文 (和文)	9本	18本	7本
国際学会	17回	28回	7回
国内学会	58回	128回	100回

レジデント短期コースを除く

研修後の進路 (2019年度~2021年度)



研修修了者からの声

- ・レジデントに積極的に業績の機会を作ってあげようという空気が科全体で感じられた (内科)
- ・全国から希少がんが集まっており、またその最後の砦として意識高く診療している先生方の姿に感銘を受けた (内科)
- ・レクチャーが教育的で充実していた (内科)
- ・手術と研究に集中できる環境が整えられている (外科)
- ・他科をローテーションすることにより、オンコロジストとしての専門性を高めることができた (外科)
- ・再発など対応が難しい症例や、希少症例など、がんセンター特有の症例を経験した (外科)



院内施設



レジデント宿舎 / 研修室

希望者には病院に直結した院内宿舎が貸与され、研修や研究に専念しやすい環境が整備されています。(単身用) 宿舎費は1か月あたり10,000円から15,000円(共益費3,000円、水道光熱費別)です。レジデント宿舎に入居しない場合は、研修机とロッカーが利用できます。



保育園

病院敷地内に院内保育園が完備されており、延長保育、夜間保育、休日保育、一時保育などに対応が可能な体制にあります。 当院レジデントは男性69%、女性31%と女性医師が比較的多く、研修期間中の妊娠・出産に対するサポート体制もあります。 男女問わず、育児と仕事の両立がしやすい研修環境です。



図書館

がん対策や研究活動を支援するため資料を広く収集しており、がん医療に関する日本屈指の図書・蔵書を誇っています。 近年はオンラインによる文献検索、二次資料サービスの施設契約を進めており、UpToDate®、Web of Science®、Cochrane Library®、医中誌®、メディカルオンライン®などをレジデントの先生方が自由に利用することが可能です。 VPN導入により、電子ジャーナルも含めて、出張先でも利用可能になりました。

Facebook

教育・研修等に関する情報を随時掲載しています。

◆アクセス方法

<http://www.facebook.com/CancerEducation/>



新専門医制度

今後変更となる可能性もあります。
従来型の学会認定専門医制度等の研修施設認定状況は、11ページをご参照ください。

●基本領域

国立がん研究センター中央病院は、以下の3領域で【**基幹施設**】となっています。

領域	診療科	連携施設
皮膚科	皮膚腫瘍科	愛知医科大学 川崎医科大学 川崎市立川崎病院 久留米大学 慶應義塾大学 国立がん研究センター東病院* 佐賀大学 静岡県立静岡がんセンター 筑波大学附属病院 東京都立駒込病院* 平塚市民病院 東京医科歯科大学 名古屋大学 三重大学 横浜市立大学

領域	診療科	連携施設
放射線科	放射線診断科 放射線治療科	君津中央病院 国立がん研究センター東病院 東京大学医学部附属病院 山梨大学医学部附属病院
病理	病理診断科	国立がん研究センター東病院 国立国際医療研究センター 国立成育医療研究センター 埼玉小児医療センター 聖路加国際病院 東京医療センター 東京都健康長寿医療センター 東京都済生会中央病院 東京病院 獨協医科大学埼玉医療センター JR東京総合病院

*連携予定

国立がん研究センター中央病院は、以下の14領域で【**連携施設**】となっています。

領域	診療科	基幹施設
外科	乳腺外科 呼吸器外科 食道外科 胃外科 大腸外科 肝胆膵外科	愛知医科大学病院 川科大学医学部附属病院 鹿児島大学病院 九州医療センター 杏林大学医学部附属病院 慶應義塾大学病院 さいたま赤十字病院* 順天堂大学医学部附属順天堂医院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京慈恵会医科大学附属病院 東京大学医学部附属病院 東北大学病院 日本赤十字社医療センター 防衛医科大学校病院
内科	腫瘍内科 呼吸器内科 消化管内科 内視鏡科(消化管) 内視鏡科(呼吸器) 肝胆膵内科 血液腫瘍科 造血幹細胞移植科 緩和医療科 先端医療科 頭頸部・食道内科	永寿総合病院 岡山大学病院 沖縄県立中部病院* 杏林大学医学部附属病院 久留米大学病院 慶應義塾大学病院 国立国際医療研究センター国府台病院* 国立国際医療研究センター病院 滋賀医科大学医学部附属病院 静岡赤十字病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 湘南鎌倉総合病院* 聖路加国際病院 高松赤十字病院 帝京大学ちば総合医療センター 同愛記念病院* 東海大学医学部附属病院* 東京医療センター 東京慈恵会医科大学附属病院 東京慈恵会医科大学附属柏病院 東京大学医学部附属病院 東京都済生会中央病院 東京都立駒込病院 虎の門病院 長野赤十字病院 名古屋医療センター* 日本医科大学付属病院 日本赤十字社医療センター 福島県立医科大学附属病院 藤沢市民病院
脳神経外科	脳脊髄腫瘍科	東京大学医学部附属病院(関連施設は複数あり)
眼科	眼腫瘍科	東京大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科	頭頸部外科	岡山大学病院 亀田総合病院 杏林大学医学部附属病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 東海大学医学部附属病院 東京医科大学病院 東京大学医学部附属病院 東邦大学医療センター佐倉病院 長崎大学病院

領域	診療科	基幹施設
形成外科	形成外科	岡山大学病院 杏林大学医学部附属病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院 日本医科大学付属病院
泌尿器科	泌尿器・ 後援腫瘍科	東京慈恵会医科大学附属病院 虎の門病院
産婦人科	婦人腫瘍科	国立国際医療研究センター病院 千船病院 東京医科歯科大学医学部附属病院
整形外科	骨軟部腫瘍・ リハビリテーション科	慶應義塾大学病院* 昭和大学病院 東京女子医科大学病院
皮膚科	皮膚腫瘍科	愛知医科大学 川崎医科大学 久留米大学 慶應義塾大学 佐賀大学 筑波大学附属病院 東京医科歯科大学 名古屋大学 三重大学 横浜市立大学
精神科	精神腫瘍科	慶應義塾大学病院 国立精神・神経医療研究センター 東京大学医学部附属病院
放射線科	放射線診断科 放射線治療科	北里大学病院 群馬大学医学部附属病院 神戸大学医学部附属病院 国際医療福祉大学成田病院 国立がん研究センター東病院 埼玉医科大学国際医療センター 自治医科大学附属病院 順天堂大学医学部附属浦安病院 順天堂大学医学部附属静岡病院 聖マリアンナ医科大学病院 千葉大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院 名古屋大学医学部附属病院 山梨大学医学部附属病院
病理	病理診断科	関西医科大学附属病院 国立国際医療研究センター病院 滋賀医科大学医学部附属病院 聖路加国際病院 東京医療センター 東京都健康長寿医療センター 日本赤十字社医療センター 福井大学医学部附属病院 防衛医科大学校病院 横浜市立大学附属病院*
麻酔科	麻酔・集中治療科	岡山大学病院 神戸大学医学部附属病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 昭和大学病院 東京女子医科大学病院 東京大学医学部附属病院 東邦大学医療センター大森病院

*連携予定

●サブスペシャルティ領域

国立がん研究センター中央病院は、日本専門医機構が認定している24領域のうち以下の領域で研修施設となる予定です。

▼消化器病 ▼呼吸器 ▼血液 ▼消化器内視鏡 ▼がん薬物療法(腫瘍内科) ▼消化器外科 ▼呼吸器外科

学会の認定医・専門医研修施設の認定

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院は、次の学会などの認定医・専門医研修施設として認定されています。

- 日本内科学会
- 日本外科学会
- 日本医学放射線学会
- 日本インターベンショナルラジオロジー学会
- 日本核医学会
- 日本カプセル内視鏡学会
- 日本眼科学会
- 日本感染症学会
- 日本肝胆膵外科学会
- 日本がん治療認定医機構
- 日本緩和医療学会
- 日本形成外科学会
- 日本血液学会
- 日本呼吸器学会
- 日本呼吸器内視鏡学会
- 日本産科婦人科学会
- 日本産科婦人科内視鏡学会
- 日本耳鼻咽喉科学会
- 日本集中治療医学会
- 日本消化器外科学会
- 日本消化器内視鏡学会
- 日本消化器病学会
- 日本小児血液・がん学会
- 日本食道学会
- 日本女性医学学会
- 日本心身医学会
- 日本心身医学会・日本心療内科学会合同
- 日本隣臓学会
- 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
- 日本整形外科学会
- 日本総合病院精神医学会
- 日本胆道学会
- 日本超音波医学会
- 日本頭頸部外科学会
- 日本乳癌学会
- 日本脳神経外科学会
- 日本泌尿器科学会
- 日本皮膚科学会
- 日本病理学会
- 日本婦人科腫瘍学会
- 日本放射線腫瘍学会
- 日本麻酔科学会
- 日本輸血細胞治療学会
- 日本臨床栄養代謝学会
- 日本臨床検査医学会
- 日本臨床細胞学会
- 日本臨床腫瘍学会
- 呼吸器外科専門医合同委員会

最新の施設認定状況については病院HPでご確認下さい。

「学位」が取得できる画期的な連携大学院制度

国立がん研究センターは、慶應義塾大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学、それぞれと連携協力のための協定書を締結し、「連携大学院制度」を導入しております。

2012年度から開始しているこの連携大学院制度は、レジデントなどの臨床研修期間中に、国立がん研究センター内で研究活動にも取り組み、その成果をもって学位の取得ができるという画期的なものです。国立がん研究センター内でも一部の授業科目の単位の修得を可能とするなど、連携大学院生の負担を軽減しつつ、十分な臨床研修・研究活動を行う環境を整備し、がんを専門領域とする若手医師が研究に取り組むことができる万全の態勢を整えています。2018年度からは学位取得を目指す方を対象とした連携大学院コースも設定しました。

連携大学院制度は、リサーチマインドを持ち幅広い知見を持った臨床医を育成していくことを目的としています。多くの方がこの制度を利用することを期待しております。

【連携大学院制度の出願について】

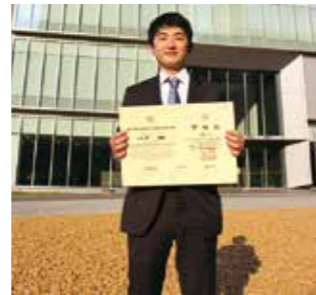
すべての研修医に適用されるものではありませんので、研修コース・診療科によっては連携大学院制度をご利用いただけない場合があります。出願を希望される方は必ず下記までお問い合わせください。

連携大学院制度についてのお問い合わせ kyoiku-resi@ncc.go.jp

連携大学院制度による学位取得者数（国立がん研究センター全体）

制度開始からこれまでの10年間で、合計123名の先生方が学位を取得されています。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
取得者	13名	16名	14名	25名



連携大学院生 人数（中央病院がん専門修練医・レジデント）

がん専門修練医・レジデントとして在籍する医師の約20-30%が連携大学院制度を利用しています。連携大学院コース選択者以外でも、連携大学院生となって学位取得を目指すレジデント等は多くいます。入職後、1-2年経ってから連携大学院に入学することも可能です。

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
がん専門修練医	当院在籍者	46名	47名	37名	36名
	連携大学院生	8名 (17%)	9名 (19%)	9名 (24%)	11名 (31%)
レジデント	当院在籍者	60名	69名	75名	86名
	連携大学院生 *うち連携大学院コース	13名*2名 (22%)	14名*3名 (20%)	19名*5名 (25%)	23名*7名 (27%)

●連携大学一覧

慶應義塾大学



1年次、2年次は、毎週火曜日の午後および水曜日の夕方に、慶應義塾大学信濃町キャンパスで講義を受講しながら、国立がん研究センターで臨床研修や研究活動を行います。研究内容としては、4年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されています。入学試験等については、慶應義塾大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

<http://www.med.keio.ac.jp/admissions/doctoral/guidelines.html>

順天堂大学



順天堂大学にて開講される短期集中の基礎教育コース、数週間の実践教育コースや、夜間開講の大学院特別講義(Web配信によるビデオオンデマンドでの受講も可)などを受講しながら、国立がん研究センターで臨床研修や研究活動を行います。研究内容としては、4年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されており、国立がん研究センター内での研究成果を学位論文とすることが可能です。カリキュラム・入学試験等については、順天堂大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

カリキュラム <https://med.juntendo.ac.jp/education/doctoral/curriculum.html>
電子シラバス <http://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/>
入試概要 <https://med.juntendo.ac.jp/admission/doctoral/>

東京慈恵会医科大学



東京慈恵会医科大学にて開講される共通カリキュラム（必修科目は原則平日18時以降、または土曜日に開講し、1年間で修了に必要な単位の取得が可能。選択科目は1科目3日～4日間程度の集中授業の他、e-learning科目も有るため必要単位を全て在宅で取得することも可能）を受講しながら、国立がん研究センターで臨床に従事したまま研究活動を行います。研究内容は連携大学院教員の指導のもと、選択カリキュラムとして基礎研究や臨床研究で成果をあげ、学位取得を目指します。カリキュラムの概要や入学試験日程等については東京慈恵会医科大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

<http://www.jikei.ac.jp/univ/gradu/index.html>

長崎大学



長崎大学大学院歯医学総合研究科博士課程では、国立がん研究センターと連携して、医療科学専攻に「包括的腫瘍学分野」を設けています。この包括的腫瘍学分野で研究指導を受ける学生は、専攻の枠を越えた多様な科目を、講義室やオンデマンド、リアルタイムオンラインで受講することができます。そのため、学生は長崎大学に通学することなく、国立がん研究センターで演習や研究指導を受けながら学位を取得することも可能です。包括的腫瘍学分野における研究では、がんの本態解明や予防などの基礎研究から、診断・治療や病態生理といった臨床研究、がんサバイバーシップや個別化医療開発といった応用まで、がんに関わる幅広いテーマが扱われています。

大学院ホームページ <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/index.html>
入学希望の皆さまへ <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/admission/index.html>

※前述の大学以外の大学院に在籍されている方も、現在の在籍先の承認が得られれば当院で研修が可能です。

がん領域のPhysician Scientistを目指す！

Physician Scientistについて

昨今のがん領域の研究では、基礎と臨床を繋ぐ「橋渡し研究」(トランスレーショナル研究;TR)の重要性が増しており、がんの基礎研究の豊富な知識と経験を有する臨床腫瘍医(medical oncologist)の育成が望まれています。そうした状況の中、国立がん研究センターにおける今後の開発研究を促進することを目的として、臨床と研究の往來を活発化し、将来のTRを担う研究志向を持った臨床医(Physician Scientist)を養成するために、国立がん研究センター中央病院または東病院におけるがん専門研修医もしくはレジデントを修了した者(もしくは採用時まで修了予定の者)を対象に本プログラムが設けられました。

Physician Scientistを目指す皆さまへ

今ほどがん研究とがん医療が近づいた時代はなかったでしょう。研究で発見された新しい診断法・治療法をすぐに臨床に導入し、逆に、臨床の場で生じる「なぜ？」を研究によって速やかに解明することが求められています。Physician Scientistはまさにこのような活動のために作られました。基礎と臨床の融合の興奮にあなたも参加してみませんか。

研究部長 間野 博行

最先端のがん研究開発人材育成には、典型的なラボの研究者とは異なり、臨床経験から学び得た患者側の視点をもっている医師である「Physician Scientist」の制度導入が重要です。研究所と連携するにあたり、この制度が臨床医療と基礎研究の橋渡し役として、さらに革新的な研究開発を展開して行くことを期待しています。

中央病院長 島田 和明

免疫チェックポイント、ゲノム創薬、武装化抗体、再生細胞、遺伝子治療...最近の最先端医療開発から実地臨床まで、基礎と臨床の両方の素養が重要になっています。縮減寸前といわれたPhysician Scientistが再び注目されてきています。医師として患者さんと接しながら研究者でもある「Physician Scientist」、臨床と基礎の橋渡し役として医学に革新をもたらす存在になるための場、体制が国立がん研究センターにはあります。新たな医療を作る主役に皆さんもなってみませんか？

先端医療開発センター長 土井 俊彦

臨床医が一定期間基礎研究を学び、診療や研究に活かして行くことはとても重要です。Physician Scientistは、東病院が推進している新しいがん医療の創出に向けたTR研究の中心的役割を果たし、終了後も各方面でリーダー的活躍をしています。皆さんの手で次世代のがん医療を切り拓いていただけることを期待しています。

東病院長 大津 敦

一週間のスケジュール

◆小金丸医師 勤務例

時間	月	火	水	木	金
7:30	Phase1関連業務	Phase1関連業務	Phase1関連業務	Phase1関連業務	Phase1関連業務(中央病院)
	研究	研究	研究	研究	研究
12:00	TR同意取得・検体採取				
	昼食				
12:00	Phase1関連業務	Phase1関連業務	Phase1関連業務	Phase1関連業務	Phase1関連業務
	研究	研究	研究	Phase1カンファレンス(各診療科/CRC)	研究
20:00	共同研究企業打ち合わせ	TRミーティング	研究	研究	共同研究アカデミア打ち合わせ
	研究	データまとめ	データまとめ	データまとめ	データまとめ・論文執筆

◆小島医師 勤務例

時間	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
	研究所プログレスミーティング	研究	研究	研究	研究
12:00	外来	研究会議(共同研究企業)	研究会議(製薬企業)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)
	研究会議(臨床研究支援部門)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)
19:00	研究会議(臨床研究支援部門)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)
	研究	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)
19:00	研究結果のまとめ・論文執筆	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)
	研究結果のまとめ・論文執筆	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)	研究会議(国際開発部門)	研究会議(製薬企業)

理事長対談

— 中釜 斉 理事長

-Physician Scientist制度に期待すること-

Physician Scientist制度は、がん医療の最前線の現場を経験した者が基礎研究にも携わることにより、新たな医療技術開発のためのTR/rTR(橋渡し研究)を担える臨床医を養成するものです。当センターは病院と研究所、あるいは臨床開発センター(EPOC)等の研究機能が同一の施設内にあることから、基礎研究者と臨床医との連携によるTR/rTRを推進する上でとても恵まれた環境にあります。TR/rTRを実践できる環境を整え、人材を育成することが、がん医療・がん研究の発展のためには極めて重要であると考えています。

臨床の現場で、患者さんに対して最適と考えた治療が奏効しなかった際の疑問・課題を、医師と研究者とでタイムリーに共有し、両者の専門性を組み合わせることで、課題解決の糸口を短時間で見出せることがあります。正にrTRの醍醐味です。一方、研究で見出されたシーズがTRの成果として実際の患者さんに医療として実装できるまでには、基礎及び開発研究者の不断の努力と長期間にわたる検証の積み重ねがあることを、医療の実践に当たる者が知ることも重要です。Physician Scientistが病院と研究所を自由に往来し、基礎および開発研究者と臨床医の思考やアイデアが交錯することで、TR/rTR推進に資する新たな化学反応が生じ、最先端の科学を医療に届ける文化が醸成することが期待されます。医療現場における課題克服に向けたモチベーションを一層高めることにつながるPhysician Scientist制度を当センターが設けることの意義は極めて大きいと考えています。

Physician Scientist制度が臨床と基礎および開発研究の双方向の連続性を強化し、今後のがん医療・がん研究の一層の発展に寄与してくれることを期待しています。



— 小金丸 茂博 医師



腫瘍内科医として先端医療科で研鑽を積み重ね、より患者さんに適した、効果のある治療を開発するためには、治療されている患者さんから頂いたサンプル(検体)を解析する研究の重要性が高いことに気が付き、臨床医と研究者の両方の視点から新薬の開発に関わりたいと考えPhysician Scientistを目指しました。

実際、治療で用いた薬剤を投薬された患者さんからサンプルを頂き、それを自分の手で解析できたことは大きな収穫でした。

世界でもいち早く新しい薬剤の治験が行われる現場を医師として体感し、その疑問点について実際に薬を用いて基礎研究が出来るということは、Physician Scientistの大きな魅力だと感じます。

— 小島 勇貴 医師



私はMASTER KEY Projectの中で、ある薬剤の治験に医師として関わり、その作用機序や効果予測因子に注目しました。臨床医として薬の実際を把握し、効果予測因子について臨床医や病理診断科の先生と検討しました。その仮説について、研究所の先生がたに臨床検体を用いて効果予測因子の発現や薬剤の有効性について評価頂きました。現在は、得られた成果が実際の患者さんに還元される可能性があるため、臨床研究支援部門と共に薬剤を開発している製薬企業と検討を行っています。

Physician Scientistとして病院と研究所の双方に関わることで、臨床側の仮説を、研究所の専門性の高い研究者に患者検体を用いて評価頂き、また、中央病院の臨床研究支援部門による臨床研究の立案・計画という一連の流れを、非常に円滑に進めることができました。



左: 小金丸医師、中: 中釜理事長、右: 小島医師



■ がん専門修練医

" 各領域のリーダーを目指す "

がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としています。指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践します。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度です。

対象者	原則として当センターレジデント修了者、またはサブスペシャリティ領域専門医取得相当の医師、または同等の能力を有する医師 ※がん専門修練医経験者の再応募は原則不可
研修期間	2年間
研修課程	<ul style="list-style-type: none"> ● がん専門修練医の臨床系の他科のローテーションは原則不可とする。事前申請により承認されたローテーションカリキュラムについては、各診療科のプログラムページにて確認すること。 ● 原則として第1学年を臨床、第2学年を研究にあてる。研究とは臨床研究を指すが、希望により研究所での基礎的な研究を申請することもできる ● がん専門修練医は申請すれば外来診療を行うことができる。外来ブースには限りがあるため、最終的には教育・研修に関する会議で調整を行う

■ レジデント（3年コース・2年コース） " 国立がん研究センター教育・研修制度の中核 "

複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指します。我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事することにより、日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度です。2年コースについては研修開始時期が選択可能です。

対象者	原則として基本領域専門医取得相当の医師 ※がん専門修練医・レジデント（短期コースを除く）経験者の再応募は原則不可
研修期間	3年間または2年間
研修課程	<ul style="list-style-type: none"> ● ローテーションは原則3か月単位とし、それぞれのコース毎に定めるカリキュラムに従う。具体的には、個人の経験やコースの特殊性を考慮し、レジデント教育責任者等と協議して決定する。調整を行う必要が生じた場合は、原則として教育・研修に関する会議等の審議を経て決定する ● 入職後1.5年目までにCCM(Critical Care Medicine)と呼ばれるICU(集中治療室)・Oncologic Emergency 研修および緩和医療研修を必修とする。必修期間は別表のとおりとする

■ レジデント（短期コース）

がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応するための研修制度です。研修開始時期は4月、7月、10月、1月から選択可能です。

対象者	原則として基本領域専門医取得相当の医師 ※がん専門修練医・レジデント経験者の再応募は原則不可 ※レジデント短期コース経験者は通算18か月以内であれば再応募可
研修期間	6か月から18か月まで
研修課程	<ul style="list-style-type: none"> ● ローテーションは原則3か月単位とし、それぞれのコース毎に定めるカリキュラムに従う。具体的には、個人の経験やコースの特殊性を考慮し、レジデント教育責任者等と協議して決定する。調整を行う必要が生じた場合は、原則として教育・研修に関する会議等の審議を経て決定する ● CCM(Critical Care Medicine)と呼ばれるICU(集中治療室)・Oncologic Emergency 研修および緩和医療研修を必修とする。必修期間は別表のとおりとする

■ 連携大学院コース

既に研究開始の準備ができていてる方を対象として、連携大学院制度を活用し、診療研修と同時に、研究活動を早い段階から開始できるコースです。

対象者	レジデント2年コースに準ずる
研修期間	4年間（レジデント2年+修練医2年）
研修課程	レジデント2年コース および がん専門修練医に準ずる ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う

■ 高度技能医コース

既に一定の手術経験を有する方を対象として、他の医療機関では得られない更に高度な手術手技を習得できるコースです。

対象者	レジデント3年コース・2年コースに準ずる
研修期間	5年間（レジデント3年+修練医2年）または4年間（レジデント2年+修練医2年）
研修課程	レジデント3年コース・2年コース および がん専門修練医に準ずる ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う

■ 専攻医コース（基幹施設型・連携施設型）

新専門医制度のもと、当センターで基本領域の研修を希望される研修者を対象としたコースです。4領域・5診療科（皮膚腫瘍科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・臨床検査科）で基幹施設となっています。詳細は各科のページをご覧ください。また、連携施設として、各プログラムに沿った研修が可能です。新専門医制度（基本領域・サブスペシャリティ領域）への対応状況は10ページもご参照ください。

■ 任意研修

1日以上任意の期間で研修できる制度です。処遇、手続き等が通常のレジデント制度とは異なるため、希望される方は下記までお問い合わせください。

任意研修についてのお問い合わせ kyoiku-resi@ncc.go.jp

CCM研修、緩和医療研修 必修期間

研修期間	外科・外科系 レジデント	内科・内科系 レジデント
6か月	なし	なし
6か月超	CCM1か月	CCM1か月
1年超	CCM2か月	CCM2か月、緩和1か月
2年超	CCM3か月	CCM2か月、緩和1か月

※CCM研修
病理診断科、臨床検査科、歯科、臨床研究支援部門の各コースでの研修者を除き、レジデントは必修とする
精神腫瘍科レジデント短期コースでの研修者は選択制とする
夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）

※緩和医療研修
内科・内科系レジデントは必修とする
内視鏡科（呼吸器・消化器）、放射線診断科、外科・外科系、歯科、臨床研究支援部門の各コースでの研修者は選択制とする
後期ローテーションにおいては緩和医療（在宅を含む）研修のみ選択可能

交流研修

必要と認められる場合には、以下に定める施設において研修（交流研修）を受けることができる。

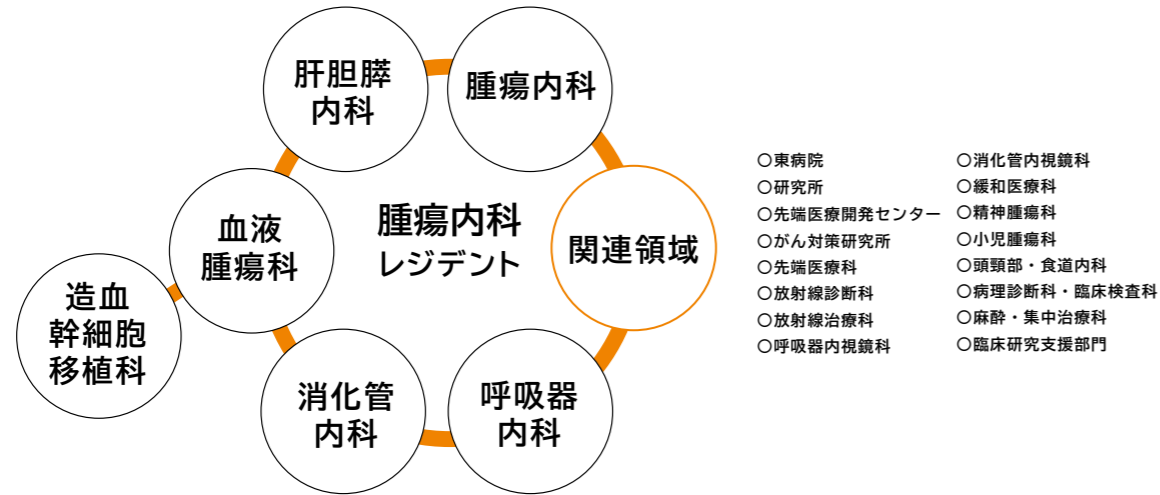
- 東病院
- 研究所
- 先端医療開発センター
- がん対策研究所
- 中央病院人材育成センター運営委員会（レジデント研修・教育に係る委員会）において認められたセンター外の施設

交流研修の期間は以下を原則とする。
（所属部署・受入先部署間の調整および会議での承認が必要）

- がん専門修練医…6か月以内
（がん専門修練医2年目の研究研修は12か月以内とする）
- レジデント3年コース …6か月以内
- レジデント2年コース …3か月以内
- レジデント短期コース 要相談
期間はそれぞれ1か月以上とする。

研修制度概要

内科総合 レジデントコースのイメージ



がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが50年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍内科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

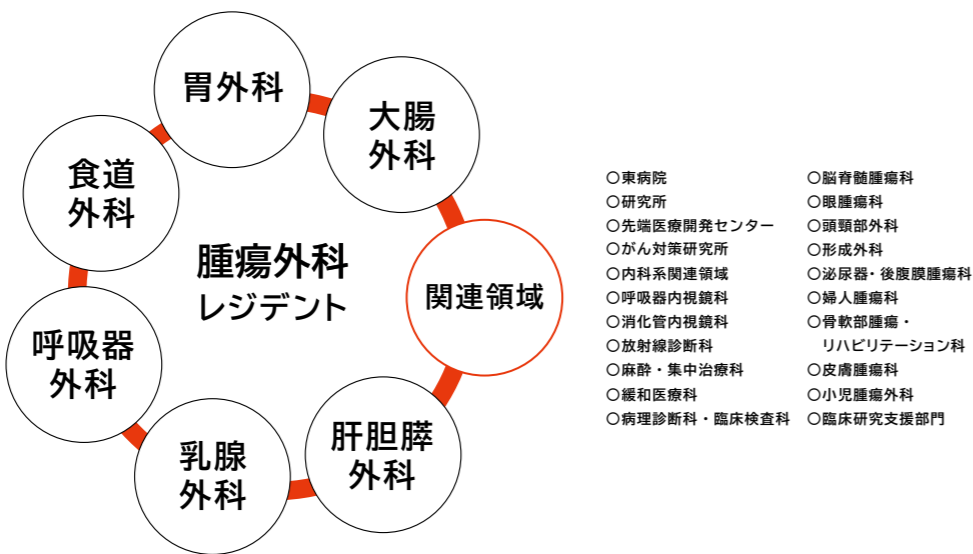
ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（緩和医療、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍内科研修を行います。

選択研修

レジデントコースでは、自らの選んだ選択研修を組み合わせることが可能です。

外科総合 レジデントコースのイメージ



がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが50年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍外科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（病理、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍外科研修を行います。

選択研修

レジデントコースでは、自らの選んだ選択研修を組み合わせることが可能です。

研修に関連する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 当センターレジデントは第54期生を数え、内科、外科ともに、幅広い知識と技術を習得した腫瘍専門医の育成を目指しています。主な診療科をローテーションするシステムを採用し、がん種による偏りなく、薬物療法、手術療法、放射線療法などの実践的知識を身につけられる数少ないがん医療教育機関です。がん医療のエキスパートによる直接指導を受け、かつ全国から集まる医師との結びつきを通じて、知識・技術、人脈を獲得できます。

Q 関連領域を、ローテーションして研修可能ですか？

A 可能です。レジデントコースには関連領域も含め、腫瘍専門医として揺るぎない足場を固めるために必要十分なローテーションが組み込まれたプログラムがあります。領域にかかわらずがん治療に必要な知識、手技を習得するという目的で世界標準のローテーションプログラムを、50年以上前に日本で初めて提供開始した教育病院こそ、国立がん研究センターです。その研修制度は、がん医療が進歩するにつれ重要性を増しています。さらに、レジデントコース以外の先生方にも、関連領域を学ぶ機会が提供されています。

Q レジデント修了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には当院のがん専門医研修コースが2年間用意されています。また、リサーチレジデント等として当院併設の研究所に引き続き所属し、臨床で得た疑問や着想を研究活動に活かしている先生方が多いことも特徴です。当然のことながら、当院修了後、各大学、研究機関、政府機関、地域のがん拠点病院、他の市中病院に異動され、それぞれの立場で腫瘍専門医として活躍されている方はさらに多くいらっしゃいます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院ロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は、世界最高水準のがん診療、最新の治療法研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点でほとんどがん治療に関する知識、技術がなかった先生方も、研修修了時点には腫瘍専門医としてひとり立ちできるまでに成長します。まずは現在の施設、環境で、内科、外科など基本領域の知識、技術を習得することに専念し、国立がん研究センターでの研修開始後の飛躍の礎を築いてください。

Q 教育環境について教えてください。

A 診療の現場では、頻度の多いがん種から希少がんまで幅広く、かつ他のどの施設よりも豊富な診療経験を、内科治療、外科治療、診断学、すべてのがん医療の局面で実践することが可能です。さらに、100件を超えるカンファレンス（診療科単位、合同カンファレンス等）が毎週開催され、当院研修中の皆さんが常に参加し、プレゼンテーションし、指導医のフィードバックを受けています。その結果、当院研修中もしくは修了後に、ほとんどの先生方が国内外の学会発表、英文・和文論文の執筆の機会に恵まれています。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 当院での研修中、臨床研究、基礎研究、学会発表、論文執筆等、なんらかの学術活動を実践することが可能です。Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 等臨床試験グループをはじめとして、新たな治療法の確立のための臨床試験が数多く実施され、その経験が自らの研究の糧になっています。また、併設された研究所を中心として、豊富な臨床検体を用いた基礎研究を実践する機会にも恵まれています。その結果、レジデントの先生方による、国内外の学会発表、英文・和文論文執筆が活発に行われ、きめ細やかな指導医のサポートのもと優れた業績が築かれています。国内の学会参加については必要経費の補助制度も利用可能です（基準有）。

Q レジデント、がん専門医研修医の給料はどのくらいですか？

A レジデントコースの月額額は概ね35万円で、がん専門医研修医の月額額は概ね40万円で、これ以外に時間外手当等の手当が付きまます。病院に直結した単身宿舍（有料）を借りることができるため、家賃負担が軽減されています。さらに、診療科との相談、業務内容に応じて、休日に他病院のアルバイトをされている方もいらっしゃいます。

Q 新専門医制度への対応状況を教えてください。

A 国立がん研究センター中央病院は新専門医制度に対応しています。具体的には、本冊子の10ページに対応状況が取りまとめられています。なお、新専門医制度自体の変更が多い状況が続いておりますため、最新の情報は専門教育企画係 (kyoiku-resi@ncc.go.jp) までご相談ください。



中央病院研修課程

ページ	コース	がん専門 研修医	レジデント					専攻医
			3年	2年	連携大学院	高度技能医	短期 (6か月から 18か月まで)	
21	外科総合	—	○	—	—	—	—	連携
22	内科総合	—	○	—	—	—	—	連携
24	血液・腫瘍内科総合	—	○	—	—	—	—	—
26	脳脊髄腫瘍科	○	○	○	○	—	○	連携
30	眼腫瘍科	○	—	○	○	—	○	連携
34	頭頸部外科	○	○	○	—	—	○	連携
38	頭頸部・食道内科	○	○	○	○	—	○	連携*2
42	形成外科	○	—	○	—	—	○	連携
46	乳腺外科	○	○	○	—	—	○	連携*1
50	腫瘍内科	○	○	○	—	—	○	連携*2
54	呼吸器外科	○	○	○	○	—	○	連携*1
58	呼吸器内科	○	○	○	○	—	○	連携*2
62	食道外科	○	○	○	—	○	○	連携*1
66	胃外科	○	○	○	○	○	○	連携*1
70	大腸外科	○	○	○	○	○	○	連携*1
74	消化管内科	○	○	○	○	—	○	連携*2
77	消化器内科総合	○	○	○	○	—	○	—
78	内視鏡科(消化管)	○	○	○	○	—	○	連携*2
81	消化管・胆膵内視鏡エキスパート	—	—	○	—	—	○	—
82	内視鏡科(呼吸器)	○	—	○	○	○	○	連携*2
86	肝胆膵外科	○	○	○	—	○	○	連携*1
90	肝胆膵内科	○	○	○	○	—	○	連携*2
94	泌尿器・後腹膜腫瘍科	○	○	○	—	—	○	連携
98	婦人腫瘍科	○	○	○	—	—	○	連携
102	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	○	○	○	—	—	○	連携
106	皮膚腫瘍科	○	○	○	○	—	○	基幹/連携
110	血液腫瘍科	○	○	○	○	—	○	連携*2
114	造血幹細胞移植科	○	○	○	—	—	○	連携*2
118	小児腫瘍科	○	○	○	○	—	○	—
122	歯科	—	○	○	—	—	○	—
126	緩和医療科	○	○	○	○	—	○	連携*2
130	精神腫瘍科	○	○	○	○	—	○	連携
134	放射線診断科	○	○	○	—	—	○	基幹/連携
138	放射線治療科	○	○	○	—	○	○	基幹/連携
142	病理診断科	○	○	○	—	—	○	基幹/連携
146	先端医療科	○	○	○	○	—	○	連携*2
150	臨床研究支援部門	○	○	○	—	—	○	—
152	遺伝子診療部門	—	—	—	—	—	○	—
154	麻酔・集中治療科	—	—	—	—	—	—	連携
	小児腫瘍外科/総合内科/臨床検査科	—	—	—	—	—	—	—

*1 外科専攻医の受け入れが可能です(外科総合コース所属となります)

*2 内科専攻医の受け入れが可能です(内科総合コース所属となります)

*連携大学院コース以外でも、連携大学院制度の利用は可能です。詳細はお問い合わせ下さい

外科総合コース

研修後の進路

	2019年度	2020年度	2021年度
国立がん研究センター(医員、研究員、Physician scientist等)	0	0	0
大学院	2	0	0
全国のがんセンター・全がん協加盟施設	1	0	0
市中病院	0	1	0
企業、海外留学等	0	0	1
その他	0	0	0
修了者合計 ※研修継続者、専攻医は除く	3	1	1

レジデントプログラム ■ 外科総合コース

5 推奨するコース

●レジデント3年コース

対象者	新専門医制度対象者は外科専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者
研修目的	・ 専門医取得:消化器外科専門医、呼吸器外科専門医、乳腺認定医、大腸肛門病学会専門医、マンモグラフィ読影認定医 ・ 研究:国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
研修内容	重点を置く診療科を一つ選択する。 外科及び外科系を、3科以上各3か月以上ローテーションする。 原則として1年目はCCMを含め基礎系(病理、診断部など)をローテーションする。 ※ 原則として、日本外科学会教育研修プログラムに則った研修を行う
研修期間	3年 ※そのうち一定期間の交流研修を認める ※病院の規定に基づきCCM・緩和医療研修を行う
研修の特色	外科全般の幅広い診療経験をつむことが可能です。 また、臨床試験による標準治療確定の過程を学ぶことができます。 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。
その他 (症例数や 手術件数など)	呼吸器外科:レジデントはそれぞれ週3件の手術を担当医として受け持ち、豊富な手術経験を積むことが可能です。 胃外科:開腹・腹腔鏡ともに十分な経験が積めます。 大腸外科:開腹・腹腔鏡手術ともに十分な執刀経験が積み、ロボット手術手技も助手を通じて学びます。 食道外科:頸部郭清を中心に腹部と胸部操作の助手及びカメラ操作を指導します。 肝胆膵外科:3か月間で肝切除1~3例を執刀することを目標とします。肝胆膵領域の画像診断、周術期管理を経験し、肝胆膵外科手術の助手を通じて手技を学びます。6か月間以上ではこの倍以上の経験となります。 乳腺外科:術者としてローテーション期間1単位(3か月間)で約30症例を執刀します。

●専攻医コース(連携施設型)

対象者	以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている外科専門研修プログラムで研修中の専攻医
研修目的	日本外科学会専門医取得のための研修を目的とする。
研修内容	呼吸器外科、胃外科、大腸外科、食道外科、肝胆膵外科、乳腺外科等の診療科で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。 各科最短3か月単位でローテーションすることも可能。
研修期間	3か月単位、最長2年間に在籍する。
研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は16-17ページを参照

国立がん研究センター中央病院で 病理診断のスペシャリストに！

研修に関するお問い合わせ先

教育担当：吉田 正行

masayosh@ncc.go.jp

診療科としての人材育成のポイント

病理診断科で全臓器の病理診断を経験することによって、病理専門医を取得し、高度な診断スキルの習得を目指します。希望する特定臓器における診断・研究の専門家を育成します。① 全臓器の病理診断を経験し、病理診断医としての高度なスキルを習得する。② 希望する臓器の専門家を目標し、特定臓器の診断・研究を継続的に行う。③ 臨床病理学的・分子病理学的研究を行い、学会発表・論文作成を行う。

当科の研修は、がん専門病院の特徴を活かした、次のものとなります。① 3か月単位で病理診断科内の全臓器をローテーションし、病理診断を行います。豊富な症例数と多数の病理指導医のもと、稀な腫瘍を含めて多数例の診断を経験することができます。② 各臓器の病理専門家が揃っており、特定臓器の専門家を目指すことが可能です。③ 分子病理学的研究手法の指導を受け、研究者としてのスキルを習得できます。④ 院内の多数の病理-臨床カンファレンスをはじめ、国内学会発表、国際学会発表、英語論文作成などの学術活動を行います。

<指導スタッフ> 谷田部恭(科長)、関根茂樹(医長)、平岡伸介(医長)、前島亜希子、森泰昌、吉田正行、吉田朗彦、吉田裕、橋本大輝、中智昭、加島淳平、杉野弘和
(※学閥に関係なく、様々な大学・施設出身者が集まっています)

<2021年の検体数> (全般)

生検検体18,845件(うち術中迅速診断1,444件、ESDを含む)、手術検体4,545件、細胞診検体11,623件(うち術中迅速診断315件)、剖検15件

<2022年のレジデント在籍数>

専攻医基幹型2名(3年目1名、1年目1名)、レジデント短期コース1名(1年)、レジデント3年コース5名、がん専門修練医1名

<レジデントの最近の卒後進路>

当センター、都立駒込病院、国立国際医療研究センター、防衛医科大学、中京病院、東京慈恵会医科大学、筑波大学、東京医療センター、札幌医科大学、広島大学、兵庫県立加古川病院、北海道大学、福岡大学、新潟大学、新潟市民病院、東京大学、JR 東京総合病院、済生会川口総合病院、聖路加国際病院 他

専攻医コース(基幹型)(3年)

1年目	2年目	3年目
NCCでの病理研修 3か月毎の科内ローテーション(消化管・婦人科・乳腺・泌尿器を含む各臓器)、迅速診断、剖検	連携病院での病理研修 希望に応じて研修先を選択し(2-4か所、3-6か月毎)、生検・手術検体、剖検などの診断を学ぶ。	NCCでの病理研修の続き 3か月毎の科内ローテーション(1年目で研修していない臓器)、迅速診断、剖検



And/or

取得可能

- ・病理専門医
- ・細胞診専門医

レジデント2年・3年コース

2, 3年

- 1~3を希望に応じて研修する。
- 1、がん病理診断技術の向上
 - 2、希望する特定臓器の専門病理医を目指す。
 - 3、分子病理学的研究を行う。

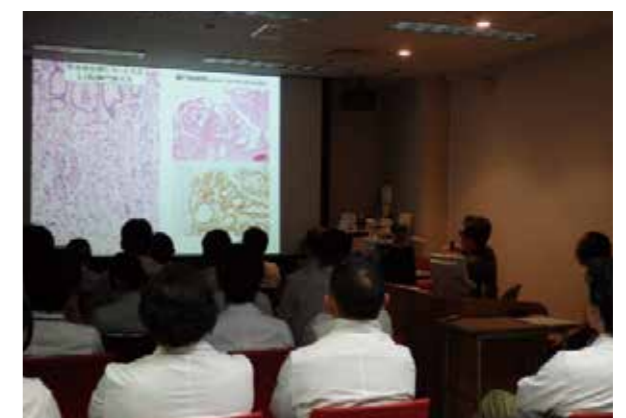
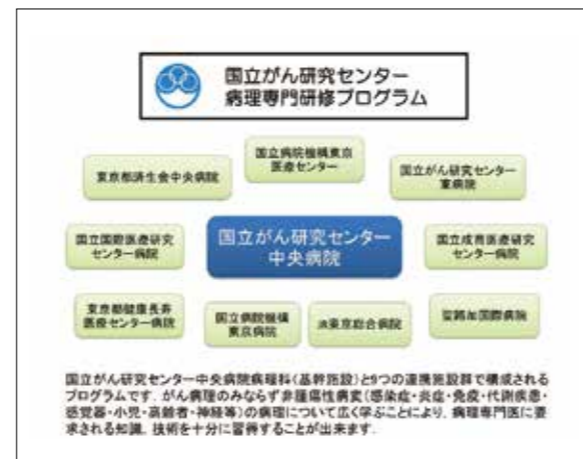
連携大学院制度を活用した学位取得

専攻医コース(新専門医制度)

平成29年度から開始された新専門医研修制度に基づき、がんセンター中央病院を基幹施設とする病理専門研修プログラムを設けました。この専攻医コースでは、病理診断を専門とし、病理専門医の使命を果たせる病理医の育成を第一義と考えています。その実現に必要な、専門的な知識・技術を有する指導医と多彩・豊富な経験症例、評価指導環境を整備しています。また病理診断の背景にある疾患病態の性格やその形成メカニズムの理解を通じて、病気の原因・本態・経路とその結果を探索していく病理学の専門家としての姿勢を学べるように考えています。本プログラムを履修することにより、一般病理からがん専門病理まで無理なく研修可能です。

研修内容(全般)

各臓器ローテート期間には、各臓器担当病理医の指導のもとで切り出しを行い、検鏡・ディスカッションを経て病理診断報告書を作成します。臨床医との術前後カンファレンスにも参加します。在籍期間を通して、術中迅速診断、生検診断、剖検に参加します。術中迅速診断は年間約1400件と極めて多く、病理専門医試験受験資格取得のための症例経験数を容易にクリアすることができます。また剖検については、施設内外での剖検研修により必要経験数の達成が可能となっています。研究や症例報告など国内外の学会発表や英文論文の執筆も活発に行われており、研修中に指導医のきめ細やかなサポートのもとで学術活動を実践することも可能です。



レジデントプログラム ■ 病理診断科

§ 推奨するコース

●専攻医コース（基幹施設型）

対象者	・ 当科を基幹施設とした専攻医プログラムを選択し、新専門医制度で病理専門医の取得を目指す者
研修目的	・ 当科を基幹施設とした研修施設群で病理診断の研修を行い、病理専門医の取得を目指す ・ オプション：細胞診専門医の取得のための研修
研修内容	・ 約2年間の院内研修、約1年間の連携施設での研修を通じて、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。 ・ 院内では腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 ・ 連携施設での研修により、非腫瘍性疾患、小児腫瘍、神経変性疾患等の研修も行う。
研修期間	3年間（そのうち1年間の他院研修を含む）
研修の特色	・ 豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で診断・研究を研修することで、専門的な知識を得ることができる。 ・ 特色のある連携施設群での研修により、多様な経験を積むことが可能である。
その他 (症例数や手術件数など)	・ 年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・ これから病理診断医になるうという人のためのコースで、一般的な技量をまずは身に付けたい人に。

●レジデント3年コース・2年コース

対象者	・ 新専門医制度対象者は病理専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ・ がん専門病院で病理診断や研究の技量を高めたい者
研修目的	・ 病理診断スキルの向上(細胞診専門医の取得を含む) ・ 特定臓器の専門病理医を目指す ・ 病理学的研究能力の向上
研修内容	・ 2年あるいは3年間の院内研修(連携施設での研修も可能)、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。 ・ 腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 ・ 特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。 ・ 臨床病理学的研究に携わることも可能。
研修期間	2年間もしくは3年間(選択可)
研修の特色	・ 豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で研修することで、専門的な知識を得ることが可能である。 ・ 希望により連携大学院に入学し、学位取得も可能である。 ・ 研修修了後は全国の中核病院、センター病院等、第一線で活躍する病理医を目指す。修了時には大学助教と同等レベルを想定。
その他 (症例数や手術件数など)	・ 年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・ 病理専門医を取得(見込み)し、診断・研究で専門性を磨くコース。

基幹型専攻医コースを含め、制度が複雑であり、希望者は研修内容について申請前にご相談ください。

§ 副次的なコース

●専攻医（基幹施設型）+学位取得コース

対象者	・ 当科を基幹施設とした専攻医プログラムを選択し、新専門医制度で病理専門医の取得を目指す者 ・ 専攻医研修期間中に当院の連携大学院に入学し、学位取得を目指す者
研修目的	・ 当科を基幹施設とした研修施設群で病理診断の研修を行い、病理専門医の取得を目指す ・ オプション：細胞診専門医の取得のための研修 ・ 連携大学院に入学し、専門臓器の臨床病理学的・分子病理学的研究を行い、学位を取得する
研修内容	・ 約2年間の院内研修、約1年間の連携施設での研修を通じて、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。 ・ 院内では腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 ・ 連携施設での研修により、非腫瘍性疾患、小児腫瘍、神経変性疾患等の研修も行う。 ・ 連携大学院に入学し、臨床病理学的・分子病理学的研究の指導を受け、研究者としての手法を学ぶ。
研修期間	5年間(専攻医3年+レジデント2年、専攻医3年目より連携大学院に入学) ※レジデント採用には再度試験を行う
研修の特色	・ 豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で研修することで、専門的な知識を得ることができる。研修期間中に専門医と学位の取得が可能。 ・ 特色のある連携施設群での研修により、多様な経験を積むことが可能である。 ・ 研修修了後は全国の中核病院、センター病院、研究機関等の第一線で活躍する病理医、研究者を目指す。
その他 (症例数や手術件数など)	・ 年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・ 病理専門医と学位との取得を目指すコース。大学における病理大学院とほぼ同等レベルを想定。

●がん専門修練医コース

対象者	・ 新専門医制度対象者は病理専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ・ 当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者 ・ がん専門病院で病理診断や研究の専門性・技量を高めたい者
研修目的	・ 特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高める。 ・ 臨床病理学的研究に携わり、研究能力の向上、成果の発信を目指す
研修内容	・ 希望する専門臓器を中心として病理診断に携わり、専門性を高める。 ・ レジデントコースや専攻医コースのレジデントへの教育に関わる。 ・ 専門領域の臨床病理学的研究の実施。
研修期間	2年間
研修の特色	・ 豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で研修することで、専門的な知識を得ることが可能。 ・ 連携大学院在籍中のものは、学位取得のための研究を引き続き行う。 ・ 研修修了後は全国の中核病院、センター病院、研究機関等において、病理医・研究者のリーダーとして活躍するために必要な能力の修得、向上が可能である。 修了時、大学助教・講師レベルを想定。
その他 (症例数や手術件数など)	・ 年間件数概数：生検20000件、手術検体5000件、細胞診12000件、剖検25-30件 ・ 病理診断医および研究者としての経験を持ち、それをさらに発展させるコース。

§ その他のコース

●専攻医（連携施設型）

対象者	・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている病理専門研修プログラムで研修中の専攻医
研修目的	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
研修内容	・ 概ね3か月～1年の院内研修を通じて、希望臓器の病理診断経験を積む。 ・ 腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで病理診断に携わる。
研修の特色	豊富な症例数と多数の病理指導医を有する当院で診断を研修することで、稀な腫瘍の診断を経験でき、専門的な知識を得ることができる。

●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方

期間・研修方法：6か月～1年6か月。病理診断科研修

特色：大学病理部からの派遣として国がんの病理を見てみたい、外科医だが一定期間病理研修がしたいなど、有給短期研修を望む人のコースです。

基幹型専攻医コースを含め、制度が複雑であり、希望者は研修内容について申請前にご相談ください。

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は16-17ページを参照

§ その他のコース

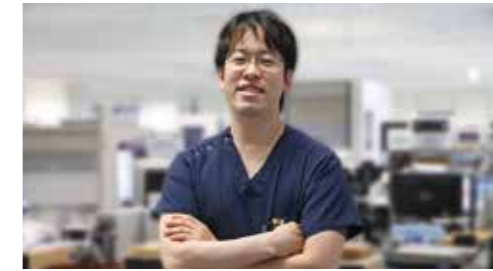
● 専攻医コース (連携施設型)

対象者	以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている麻酔科専門研修プログラムで研修中の専攻医
研修目的	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
研修内容	国立がん研究センター中央病院に3か月単位、最長2年間在籍する。
研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は16-17ページを参照



がん専門修練医からのメッセージ



第32期がん専門修練医
血液腫瘍科コース
服部 大樹

初期研修:大学病院
後期研修:大学病院(腫瘍・血液内科)

2021年4月より国立がん研究センター中央病院
がん専門修練医(血液腫瘍科コース)

認定内科医(2016年取得)
血液専門医(2021年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

私は大学病院に所属しており、科の上司より当院での研修を推奨されました。実際に、当大学の先輩方の多くが当院での研修を経て、その後にその領域で活躍しております。血液腫瘍科は悪性リンパ腫を中心とした血液悪性腫瘍を多く診ており、また造血幹細胞移植科は日本有数の移植件数を誇っております。当院での研修により多くの症例を経験し、自分自身を飛躍的に成長させられるのではないかと考えました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

がん専門修練医の1年目は血液腫瘍科へ専従し、全入院患者のマネジメントに関して責任を持つことで、数多くの疾患を経験することができます。私は2年目に造血幹細胞移植科や病理部での研修を行う予定ですが、希望によっては臨床研究に集中することもできます。

3. 院内の雰囲気、研修環境

スタッフの先生方は専門領域に関して非常に深い知識を有し、また自らがエビデンスを作る側であることを自負しており、その中で研修することは非常に刺激的です。実臨床においても熱心であり、症例に関していつでも相談に応じてくださり、とても研修しやすい環境と思います。また、IVR、内視鏡部、病理部のアクティビティーが高く、腫瘍生検から病理診断までが非常にスムーズであり、がん診療に集中できる環境と思います。



4. 中央病院だから経験したこと、できること

悪性リンパ腫診療に関しては、最先端の医療が経験できたと思います。CAR-T細胞療法に関しては、現時点でTisagenlecleucel、lisocabtagene maraleucelの2つが経験でき、近いうちに axicabtagene ciloleucel も使用できるようになると思います。国内でも複数種類の CAR-T 細胞療法を経験できる病院は少ないと思います。また、治験を多く経験することで、どのように薬剤が開発され承認されるかを実感することができます。

5. 研修終了後の進路

研修終了後は大学病院へ戻る予定です。当院での経験を活かし、血液疾患の診療・研究に従事していきたいと考えております。

6. 休日の過ごし方・生活環境

休日は当番制となっており、血液腫瘍科においては休日の約半分が当番日となり、午前中に病棟での診療を行います。当番でない日は基本的に家族とゆっくり過ごすことが多いです。ただ、がん専門修練医である以上は、休日の病棟急変にはいつでも対応できる心づもりでございました。

7. これはイチオシ!

数多くの症例を経験でき、かつ最先端の医療を経験できることです。

8. みなさんへのメッセージ

当院にはがん診療に必要なものが充実しており、がん診療に集中できる素晴らしい環境であると思います。がん診療に従事したいと考えている方には当院での研修をおすすめします。また、当院には様々な研修プログラムがあり、それぞれに一長一短があります。がん専門修練医は、専修科の一員として扱われ、スタッフとの距離も近く、濃厚に数多くの症例を経験することができますが、がん薬物療法専門医(腫瘍内科専門医)取得に向けた他科ローテーションには向きません。2年・3年レジデントに関しては、他科ローテーションを行い、がん薬物療法専門医(腫瘍内科専門医)を目指すこともできますが、専修科においてもがん専門修練医ほどの症例経験数には至りません。自分がどのように学びたいかをぼんやりとでもイメージして、研修プログラムを選択することで充実した研修になると思います。



9. ある1日のスケジュール

8:20	病棟カンファレンス
8:40	病棟回診
9:00	病棟業務
12:00	昼食
13:00	病棟業務
17:00	カンファレンス
19:00	病棟業務
21:00	帰宅

がん専門修練医からのメッセージ

第32期がん専門修練医
肝胆膵外科コース
長嶋 大輔



初期研修:市中病院
後期研修:市中病院(外科)

2020年4月より国立がん研究センター中央病院
レジデント短期コース(肝胆膵外科コース)
2021年4月より国立がん研究センター中央病院
がん専門修練医(肝胆膵外科コース)

外科専門医(2014年取得)
肝臓専門医(2017年取得)
消化器外科専門医、消化器がん外科治療認定医、
がん治療認定医(2018年取得)
消化器病専門医(2019年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

肝胆膵領域のがん診療を学ぶためです。以前に他施設で指導いただいた先生の存在が中央病院での研修を検討するきっかけでした。医師として10年が過ぎ、自分の行う手術を含めたがん診療が正しいのかと疑問に思うことが多くなりました。今後、肝胆膵外科医として歩み続けるために知識と技術を整理して発展させたいと思い、中央病院での研修を希望しました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

圧倒的な高難度手術の件数です。繰り返し経験することが上達への何よりの近道だと思います。レジデント短期コースとがん専門修練医では病棟での業務内容は異なりますが、手術から学べることは大きく変わりません。手術から学ぶ環境、文献から学ぶ環境、研究を行う環境が整っており、驚きました。



3. 院内の雰囲気、研修環境

伝統を継承しながら個々の医師がそれぞれの価値観に基づいて最善のがん治療を提供しようとする姿勢、がん専門病院でその最善の治療を受けたいと望まれる患者さん、そしてその最善と考えられる治療法や方針、考え方を学ぼうとするレジデント。病院内に熱意や希望、気力が満ちているように感じます。この環境でがん診療を実践できることは、学び向上しようと思う熱源となります。

4. 中央病院だから経験したこと、できること

圧倒的な数の手術に参加できることで今まで捉えなかったこと(解剖、手術操作、判断基準など)が見えてくるようになります。他科との合同カンファレンスを通じて、それぞれの診療科での着目点や考え方に触れることができます。当然ですが他科の先生方もトップランナーであり、その先生方との議論は刺激的です。また私はがん専門修練医1年目から連携大学院制度を利用し、社会人大学院生となりました。がん診療、手術を学びながら学位の取得を目指すことができています。

5. 研修終了後の進路

出身地の肝胆膵外科診療に従事したいと考えています。中央病院での研修で得られたもの、確認できたものをこれから自分のものとして発展させていきたいと思っています。

6. 休日の過ごし方・生活環境

私はレジデント宿舎を利用して単身赴任しています。週末はできる限り家族と過ごせるように業務と研修の調整を行っています。

7. これはイチオシ!

「24時間365日、肝胆膵外科医であれ」を満喫することができます。疲れたときは、私が思う「これぞ東京」という景色が四季折々の姿で待っています。

8. 成長を実感したできごと、うれしかったこと

手術が上手になりたいと望むレジデントが全国から集まり、切磋琢磨することができるのは貴重な経験です。競争ではなく共に成長する、です。育ってきた背景が異なるので、互いに新たな視点を共有することができました。手術やがん診療の議論を通じて自分の意見が間違っていないと分かった時は、これまでの努力が報われた気がしました。また家族と離れて生活し、家族の温かさと自分が父親であることを強く実感することができました。

9. 入職前のイメージとのギャップ

レジデント同士が競争相手にある研修環境と想像していましたが、同志であり仲間であったことに驚きました。



10. みなさんへのメッセージ

ある程度の学年になってからこそ、中央病院での研修で分かることがあると思います。年次に関わらず自ら学ぶ姿勢があれば多くを吸収できる環境です。現状維持ではなく新たな可能性を探求できる研修になると信じています。

11. ある1日のスケジュール

7:00	病棟回診、業務
8:00	カンファレンス
8:30	病棟回診
8:45	手術
16:00	術後対応、病棟処置、回診
17:00	手術記録、病棟業務
19:00	自己研鑽(手術復習、予習)
21:00	帰宅

がん専門修練医からのメッセージ

第33期がん専門修練医
呼吸器内科コース
立石 晶子



初期研修:市中病院
後期研修:市中病院(呼吸器内科)

2019年4月より国立がん研究センター中央病院
レジデント(呼吸器内科連携大学院コース)
2022年4月より国立がん研究センター中央病院
がん専門修練医(呼吸器内科コース)

認定内科医(2017年取得)
呼吸器専門医(2020年取得)
呼吸器内視鏡専門医、がん薬物療法専門医(2021年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

一般呼吸器内科の後期研修が修了し、肺癌を専門にしたいと考えておりました。肺癌だけでなく他科のローテーションができ、がん薬物療法専門医(腫瘍内科専門医)のための研修もできる点、また肺癌領域でエビデンスを作っている先生方から直接指導を受けられる環境が魅力的と感じたためです。レジデントとして様々な研究に関わらせていただいたこともあり、そのまま研修を続けたいと思いがん専門修練医を志望しました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

私はレジデント3年を経てがん専門修練医になりましたが、レジデントでは個人個人で自由度高くオーダーメイドで研修を組むことができ、自分の専門科だけでない幅広い「がん治療」を学ぶことができました。現在はがん専門修練医として病棟のマネジメント含め病状説明、外来も持たせていただき大変勉強になっています。また、私はレジデントからの連携大学院コースで、研修しながら学位も取ることができました。



3. 院内の雰囲気、研修環境

各科の垣根が低く、患者さんのことでコンサルトしてもその領域でのエビデンスに基づいたプロフェッショナルな意見を聞くことができます。またレジデントやがん専門修練医などモチベーションの高い同世代も多く、切磋琢磨できます。私はレジデント中に妊娠、出産し育休を取得しましたが、研修プログラムも臨機応変に対応いただけました。小さいお子さんのいる先生方も多く、育児と研修の両立に理解を示してくださる上司/同僚に恵まれており、大変有難い環境です。

4. 中央病院だから経験したこと、できること

臨床面では、市中病院ではあまり出会わなかった若年の癌や希少がんを数多く経験することができ治療の幅が広がったと感じています。また、研究面では、豊富な症例数をもとにした多くの観察研究や前向き研究を立案するところから関わらせていただけていることも中央病院ならではの点だと思います。

5. 研修終了後の進路

専門病院または市中病院で肺癌に関わる診療、研究、教育を続けていきたいと考えています。

6. 休日の過ごし方・生活環境

土日は当番制のため当番以外の休日は2歳になった娘との時間を大切にしています。当番の日にはカルテ調べなど病院でしかできない研究の時間を作っています。



7. これはイチオシ!

圧倒的な症例数を経験できること、研究テーマがたくさんあること、最先端を走っている先生方に直接指導いただけることです。また、連携大学院コースもあり、研修しながら学位取得を目指すこともできます。

8. 成長を実感したできごと、うれしかったこと

嬉しかったことは、苦労した研究発表がASCO breakthroughという国際学会でMerit Awardをいただいたことや、臨床腫瘍学会で奨励賞をいただいたことです。指導医の先生をはじめスタッフの先生方に丁寧に指導いただけたからだと思います。



9. みなさんへのメッセージ

短期間の研修でも非常に勉強になると思います。ぜひ見学にいらしてください。

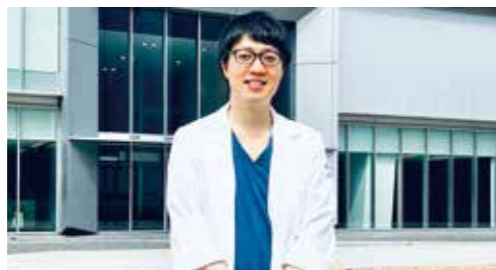
10. ある1日のスケジュール

8:00	カンファレンス
8:30	病棟回診
9:00	病棟業務
12:00	昼食
13:00	研究など
16:00	治験カンファレンス
16:30	夕回診
18:30	保育園お迎え、帰宅

レジデントからのメッセージ

第52期レジデント
消化器内科総合コース

池田 剛



初期研修:市中病院
後期研修:大学病院(消化器内科)

2020年4月より国立がん研究センター中央病院
レジデント(消化器内科総合コース)

消化器病専門医(2019年取得)
消化器内視鏡専門医(2022年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

化学療法に興味がありましたが、消化器内科で化学療法を専門にしている施設は少ないのが現状でした。プロフェッショナルのもとでより専門性の高い教育を受けたいと思い、中央病院での研修を選びました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

私の選んだ消化器内科総合コースは消化管内科6ヶ月、肝胆膵内科6ヶ月が必修のコースです。消化管内科では代表的な消化管悪性腫瘍だけでなく、NETやGISTまた治療目的の入院なども担当することができます。肝胆膵内科では、化学療法だけでなく高度な内視鏡処置も行うことができ、消化管・肝胆膵ともに、前施設では経験できないような内容や数の症例を経験することができます。もちろん内視鏡は握らず化学療法のみを専門として志している先生も多数いらっしゃるので、そのような先生も大歓迎です。



3. 院内の雰囲気、研修環境

がん薬物療法専門医(腫瘍内科専門医)取得のために他科をローテーションしましたが、専門外のローテーターであっても熱心な指導が受けられ、かなり教育的です。同じ目標の同期・先輩が集結しているので、とてもモチベーションを維持しやすく、また研修後も全国に知り合いが増える点も魅力的です。

4. 中央病院だから経験したこと、できること

消化管内科と肝胆膵内科に所属しているので、双方から沢山指導を受けることができます。多数の症例を診るだけでなく、学会発表、論文作成、プロトコル作成、書籍執筆などこれまで携われなかったことに一から取り組むことができ



ます。また当院での研修中に執筆した論文で、学位を申請させて頂く予定です。とてもありがたく思っています。

5. 研修終了後の進路

自身の希望で卒業8年目に、大学から当院に転向しました。研修後は大学に戻り、がん診療に携わっていく予定です。

6. 休日の過ごし方・生活環境

土日は当番制で、月1-2回の当番以外は、出勤はありません。兼業も認められているので、土曜はバイト、日曜は家族との時間を過ごしています。平日と土日とでメリハリがあるので、スケジュールは組み立てやすいです。

7. これはイチオシ!

研究に自らが主導で携われるのが一番の魅力です。またご高名な先生から直接指導を受けることができ、すぐに意見を聞くことができる環境はなかなかないと思います。また初期研修の頃のように、一生の仲間となる同期や先輩に巡り合うことができることは、今後ないと思います。

8. 成長を実感したできごと、うれしかったこと

自分で書籍を書いたことがなかったので、それが出版されたことが第一に嬉しかったです。その後自分の論文が検索できるようになり、成長を実感しました。それらを作成するまでの道のりは辛かったです(笑)。

9. みなさんへのメッセージ

国立がん研究センター中央病院には、来なかったら知らなかった世界がたくさん広がっていました。日本のがん診療をリードする先生方とともに働くだけでもたくさん刺激を受け、一生の財産となる経験ができると思います。迷っている先生は是非研修に来てください。

10. ある1日のスケジュール

8:00	カンファレンス・抄読会
9:00	病棟回診
9:30	病棟業務 / 内視鏡治療
12:30	休憩
13:30	病棟業務 / 内視鏡治療
15:30	研究・論文執筆
17:00	病棟回診
19:00	帰宅

レジデントからのメッセージ

第52期レジデント
外科総合コース

久保 賢太郎



初期研修:市中病院
後期研修:市中病院(一般外科)

2020年4月より国立がん研究センター中央病院
レジデント(外科総合コース)

消化器外科専門医(2021年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

がん診療の最先端の病院でありながら、教育機関としての一面もある医療機関で、若いうちに貴重な経験ができると考えたからです。外科手術に関しても、見学の際に素晴らしいスキルを目の当たりにし、感動すら覚えたので、レジデントを希望しました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

数多くの研修プログラムがあるため、自身に合った研修、自身の希望する研修を選択できると思います。外科系に限らず、内科、放射線、内視鏡、病理などの研修も行うことができ、それぞれの科にトップランナーの先生がいらっしゃるの、がん診療の最先端の治療やevidenceに基づいた考え方を総合的に学ぶことが可能だと思います。外科に関しては、専門医取得のための症例数に関しても考慮していただけます。

3. 院内の雰囲気、研修環境

医師、看護師、技師、PT、OT、ST、事務職の方々など、多くのスタッフが一つの目標に向かってそれぞれの分野で働いていることが印象的です。診療の場面以外にも、意見を交換する機会も多く、活気に溢れる病院だと思います。外科に関しては、先輩レジデント、がん専門修練医、スタッフの先生方から惜しげもなく、その経験や手技を学ぶことができるのも印象的です。



4. 中央病院だから経験したこと、できること

スタッフの先生方はそれぞれに際立つ個性をお持ちで、診療に対する情熱を間近に感じるだけでも、刺激的な日々を送ることができると思います。全国から同じ志をもつ同世代の医師たちとの交流が持てることは、日常において切磋琢磨することができますし、将来への貴重な財産になると思います。

5. 研修終了後の進路

がん専門修練医として引き続き当院で診療を継続される先生、関東近郊のがんセンターで研修される先生、大学医局に入局される先生、市中病院に赴任される先生など多岐にわたります。

6. 休日の過ごし方・生活環境

休日は当番制となっている診療科が多いと思います。外勤、家族との時間、銀座での買い物、残務の処理など、各々自由に過ごすことができると思います。

7. これはイチオシ!

市中病院出身の先生方には、連携大学院制度は個人的にはオススメです。外科研修におけるイチオシは何といっても症例数だと思います。全診療科とも数多くの手術を行っているため、多くの手術に参加することができ、専門医取得のための症例に困ることはないと思います。また手術手技だけでなく、早期退院できるような徹底的な病棟管理を学ぶことは貴重な経験になることは間違いありません。

8. みなさんへのメッセージ

当院での外科研修は手術、病棟業務、論文、学会活動など、これまでバラバラに、その場しのぎで学んでいたようなことを、短期的かつ体系的に学ぶいい機会だと思います。そして先生方のこれまでの経験や知識と相まって、これからの飛躍の礎となると信じています。ぜひお気軽に連絡をください。



9. ある1日のスケジュール

7:00	病棟回診、業務
8:00	科内カンファレンス
8:30	病棟処置
8:45	手術
16:00	病理検体処理
17:00	病棟回診、業務
18:00	残務、自己研鑽
20:00	帰宅

レジデントからのメッセージ

第53期レジデント
形成外科2年コース

鬼塚 彩由美



初期研修:大学病院/市中病院
後期研修:大学病院/市中病院(形成外科)

2021年4月より国立がん研究センター中央病院
レジデント(形成外科2年コース)

形成外科専門医(2022年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

日本最高峰の施設で再建外科を学びたいと思ったからです。形成外科は専門分野が細分化されており、再建手術を行っている病院は限られます。その中でも一流の技術を学びたかったことや、当院を修了した先輩医師からの強い勧めもあり、志望しました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

レジデントは外来を持たず、手術や診療に没頭することができます。一般病院ではみない手術や他院で切除不能と判断された症例も多く、とても刺激的です。

症例ごとに細やかな指導をしてもらえるので、一步一步ステップアップを実感することができます。他科と合同で手術に入ることが多く、院内に知り合いが増えるのも楽しいところです。

3. 院内の雰囲気、研修環境

指導医の技術・知識レベルが高いのはもちろん、全国から集まってくるレジデントも熱い思いを持ったやる気のある人ばかりです。また、医師のみならず、メディカルスタッフもがん診療に特化しており、様々な業務がスムーズに進む印象です。妊娠中も復帰後もたくさんの方々に支えてもらい、楽しく仕事できています。

院内に単身者寮を借り、手術までの空き時間や就業後の自己研鑽のスペースとして利用しています。自宅にそのような場所を設けるのは難しいため、集中できる空間があるのはとてもありがたいです。

4. 中央病院だから経験したこと、できること

これまで大学病院で再建手術を経験してきましたが、当院の手術の技術とスピードは他院では考えられないほどです。そのスピード感を身をもって体感することが今後の財産になると思います。



5. 研修修了後の進路

大学病院勤務や市中病院の部長として働いている先輩が多いです。私は再建手術を続けられる病院での勤務を考えています。

6. 休日の過ごし方・生活環境

病院の近くに住んでおり、休日はお散歩がてら、こどもをベビーカーに乗せて銀座まで歩いています。公園も多く、徒歩圏内に保健所や小児科があり、

こどもと一緒に生活しやすい環境が整っています。ショッピングモールやスーパーも近くにあるため、日常の買い物に困ることもありません。

休日当番は月に2回程度です。

7. これはイチオシ!

院内保育園があるため、保育園戦争に巻き込まれずに年度途中での仕事復帰が可能でした。希望すれば土日や夜間も預かってもらえます。また、院内PHSがつながるため、何かあった場合にはすぐに連絡がとれます(手術がない時や空き時間に連絡をもらい授乳に行っています!)



8. 入職前のイメージとのギャップ

最先端の医療機関と聞くと、システム化された冷たい職場なのかなというイメージがありましたが、働いている人は人間味、温かみのある人たちばかりでした。だからこそ高度な医療の提供ができるのだな、と今では思います。

9. みなさんへのメッセージ

現在、生後8ヶ月の娘を育てながら仕事をしています。職場の理解や協力的なことなどはできないことなので、とてもありがたい環境です。執刀日は手術が終わるまでありますが、ほかの日は早めに帰らせてもらうというメリハリのある生活をしています。子育て中でも自分のやる気次第でいくらでも活躍できると思います。一緒にがんばりましょう!

10. ある1日のスケジュール

7:30	出勤(保育園登園)
7:45	担当患者回診
8:15	カンファレンス
9:00	手術
17:00	手術終了
17:30	担当患者回診
18:00	お迎え、帰宅

専攻医からのメッセージ

専攻医(基幹施設型)
病理診断科コース

山本 奈美



初期研修:市中病院

2020年4月より国立がん研究センター中央病院
専攻医(基幹施設型)病理診断科コース

1. 中央病院を選んだ理由

大学の医局に属さず、病理専門研修プログラムを組んでいる基幹施設は限られています。中でも、がんセンターの症例数の多さや、病理専門医・指導医数の多さを理由に、プログラムを選択しました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

1、3年目は中央病院で臓器ごとにローテーションします。臓器別でまとまって研修を行うプログラムは他施設ではあまりなく、当院に特徴的かと思えます。各臓器の担当の先生から指導を受けることができ、非常に勉強しやすい環境です。2年目は3~6ヶ月ごとに、1年間で3~4つの連携施設で研修を行います。当院ではほとんど見る機会のない非腫瘍性疾患も十分に学ぶことができます。

3. 院内の雰囲気、研修環境

スタッフの数だけでなく、レジデントや専攻医の数も多く、上下2年差程度の先生にもすぐに声かけられる環境です。専攻医は、毎年1~2名が新しく入っています。臨床科から数ヶ月単位で病理をローテーションする先生も多くいらっしゃいます。毎日、スタッフの先生との検鏡の時間もあり、疑問はすぐに聞くことができますし、教育用の標本を見せていただくこともあります。



4. 中央病院だから経験したこと、できること

一般病院と異なり、臓器ごとに専門の先生がいらっしゃいます。他院からの紹介も多く、骨軟部腫瘍等、まれな腫瘍と遭遇する機会もかなり多いです。生検検体、手術検体ともに症例数は豊富で、ローテーション中の臓器の検体はほとんど全て、切り出しから診断まで担当することができます。免疫染色の抗体の種類も豊富で、FISHも自施設で行えるため、診断を追求することができます。

5. 研修修了後の進路

レジデントとして当院での研修を継続する、連携大学院に進む、市中病院に

就職する、等の選択肢があります。医局に属していないぶん、自分で進路を決めることができます(逆に、就職先を自分で考える必要はあります)。

6. 休日の過ごし方・生活環境

休日の義務はありません。稀に割検が入ります。レジデント宿舎を利用している人は半分程度です。

7. これはイチオシ!

・臓器ごとにローテーションし、臓器ごとの担当スタッフから指導を受けることができること。
・卒後年数の近い先生も多いこと。



8. 成長を実感したできごと、うれしかったこと

1年目に当院で多数の悪性腫瘍の標本に追われ、2年目に連携施設で非腫瘍も含む幅広い標本に触れた後、3年目に当院に戻ってきた時には以前よりも日々の業務で一杯一杯になることが少なくなったと思います。

9. みなさんへのメッセージ

病理の専攻医プログラムでは大学医局に属するのが王道であり、初期研修終了後に病理研修を始める最初の施設として当院のような専門病院を選択するのは少し特殊かもしれませんが、私自身はとても良い選択だったと思っています。当院基幹型の専攻医だけでなく、他病院の連携施設型や、レジデントとして等、当院の病理診断科で研修をする選択肢は複数あります。興味のある先生はぜひ見学にいらしてください。

10. ある1日のスケジュール

7:30	出勤、標本下見
8:45	指導医と検鏡
10:00	診断、免疫染色オーダーなど
12:00	昼休み
13:00	診断業務
14:00	切り出し
15:30	診断業務
19:00	帰宅

がん専門修練医募集要項

① 応募資格

原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師

- (1) 国立がん研究センターレジデント研修を修了した者、または修了見込みの者
- (2) 各コースに関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込みの者
- (3) 上記と同等の能力を有する者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：がん専門修練医経験者の再応募は原則不可とする。

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数（予定）

中央病院 20 名程度

③ 出願手続

(1) 出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

(2) 締切日（必着）

2022年9月15日（木）

(3) 必要書類

- ア. 願書（所定様式・A3判）
- イ. 健康診断書（所定様式）（1年未満の診断結果）
- ウ. 上司または指導者の推薦状（所定様式）
- エ. 医師免許証の写し（A4判に縮小）
- オ. 大学（医学課程）卒業証書の写し（A4判に縮小）または卒業証明書
- カ. 在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）
- キ. 業績リスト（英文かつfirst authorの論文のみ・in pressも可）（様式自由・A4）
- ク. 手術経験記載表（所定様式）
（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）
- ケ. 「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

④ 選考方法

書類審査および面接試験

※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います

※一次選考の結果および面接試験の案内はEmail等により通知いたします

⑤ 選考日

2022年10月5日（水）

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地5-1-1

⑦ 合格発表

選考日のおおむね1か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

2年間（2023年4月1日～2025年3月31日）

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで高度な知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（1年目には宿日直勤務、2年目には研究を含む）。

⑩ 処遇等

※変更となる可能性もあります

- (1) 身分 常勤職員
- (2) 勤務条件 週38時間45分（基本勤務：8時30分から17時15分）
※1年目には原則宿日直勤務あり
- (3) 給与 国立研究開発法人国立がん研究センター修練医等給与規程に基づく
【基本給月額（見込み）】1年目 420,000円 / 2年目 440,000円
- (4) 諸手当 業績手当（賞与）、超過勤務手当、住居手当、通勤手当、その他手当
※各種手当は、状況により付与
- (5) 健康保険 厚生労働省第二共済組合
年金等 厚生年金（第2号）、雇用保険
- (6) 宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用可能
- (7) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL:03-3542-2511（内線2249・2138）

E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ > (中央病院・東病院) > 採用情報 > レジデント募集情報

レジデント（3年コース・2年コース・連携大学院コース・高度技能医コース）募集要項

① 応募資格

原則として以下の全ての条件を満たした医師

- (1) 採用時に医師免許取得後3年目以降の者
- (2) 基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの者

歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後3年目以降の者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：がん専門修練医・レジデント（短期コースを除く）経験者の再応募は原則不可とする。

注：厚生労働省の開催指針に従ったがん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数（予定）

中央病院 27名程度（基幹施設型専攻医を含む）

③ 出願手続

(1) 出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

(2) 締切日（必着）

2022年9月15日（木）

(3) 必要書類

ア．願書（所定様式・A3判）

イ．健康診断書（所定様式）（1年未満の診断結果）

ウ．上司または指導者の推薦状（所定様式）

エ．医師免許証の写し（A4判に縮小）（歯科部門については歯科医師免許証の写し）

オ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4判に縮小）または卒業証明書

カ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）

キ．手術経験記載表（所定様式）

（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）

ク．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

④ 選考方法

書類審査、筆記試験および面接試験（応募状況により一部省略有）

※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います

※一次選考の結果および試験の案内はEmail等により通知いたします

⑤ 選考日

2022年10月4日（火）

注：2年コース応募者について、4月以外の研修開始を希望する場合には調整を行う

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室

東京都中央区築地5-1-1

⑦ 合格発表

選考日のおおむね1か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

3年間（2023年4月1日～2026年3月31日）または2年間（基本として2023年4月1日～2025年3月31日）

注：連携大学院コース・高度技能医コースについては上記期間修了後に続けて2年程度の研修を行う

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診察に従事する（宿日直勤務を含む）。

⑩ 処遇等

※変更となる可能性もあります

(1) 身分 常勤職員

(2) 勤務条件 週38時間45分（基本勤務：8時30分から17時15分）

※原則宿日直勤務あり

※CCM研修期間は夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）

(3) 給与 国立研究開発法人国立がん研究センター修練医等給与規程に基づく

【基本給月額（見込み）】1年目350,000円／2年目370,000円／3年目390,000円

(4) 諸手当 業績手当（賞与）、超過勤務手当、住居手当、通勤手当、その他手当

※各種手当は、状況により付与

(5) 健康保険 厚生労働省第二共済組合

年金等 厚生年金（第2号）、雇用保険

(6) 宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用可能

(7) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL:03-3542-2511（内線2249・2138）

E-mail: kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ > (中央病院・東病院) > 採用情報 > レジデント募集情報

レジデント（短期コース）募集要項

① 応募資格

原則として基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの医師
歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後2年目以降の者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：がん専門修練医・レジデント（短期コースを除く）経験者の再応募は原則不可とする。

レジデント（短期コース）経験者は通算1年6か月以内であれば再応募可とする。

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数

中央病院 若干名

*前年度レジデント短期コース採用実績 中央病院 27名

③ 出願手続

出願書類郵送前に、氏名、出身大学、医師免許取得年、現所属機関、希望の研修施設（中央もしくは東病院）・コース・研修開始月・研修期間を専門教育企画係までメールにてご連絡ください。（メール受付締切日は願書締切日の1週間前となります）

原則として研修者数に余裕がある場合の採用となるため、状況により受け付けできないこともございます。あらかじめご了承ください。

(1) 出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

(2) 締切日 4月開始コース 第1回：2022年10月19日（水）／第2回：2022年12月23日（金）
7月開始コース 第1回：2022年12月23日（金）／第2回：2023年4月上旬
10月開始コース 第1回：2023年4月上旬／第2回：2023年7月上旬
1月開始コース 第1回：2023年7月上旬／第2回：2023年10月上旬

(3) 必要書類

ア．願書（所定様式・A3判）

イ．健康診断書（所定様式）（1年未満の診断結果）

ウ．上司または指導者の推薦状（所定様式）（専攻医コース（連携施設型）の志望者は不要）

エ．医師免許証の写し（A4判に縮小）（歯科部門は歯科医師免許証の写し）

オ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4判に縮小）または卒業証明書

カ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）

キ．手術経験記載表（所定様式）

（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）

ク．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

④ 選考方法

書類審査および面接試験

⑤ 選考日

4月開始コース 第1回：2022年11月2日（水）／第2回：2023年1月17日（火）

7月開始コース 第1回：2023年1月17日（火）／第2回：2023年4月

10月開始コース 第1回：2023年4月／第2回：2023年7月

1月開始コース 第1回：2023年7月／第2回：2023年10月

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室

東京都中央区築地5-1-1

⑦ 合格発表

選考日のおおむね1か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

研修コースにより異なる。（最短6か月、最長1年6か月）

注：通算1年6か月を超える研修延長は不可とする

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

⑩ 処遇等

※変更となる可能性もあります

(1) 身分 常勤職員

(2) 勤務条件 週38時間45分（基本勤務：8時30分から17時15分）

※原則宿日直勤務あり

※CCM研修期間は夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）

(3) 給与 国立研究開発法人国立がん研究センター修練医等給与規程に基づく

【基本給月額（見込み）】350,000円 ※任期1年超の場合、2年目370,000円

(4) 諸手当 超過勤務手当、通勤手当、その他手当

※各種手当は、状況により付与

(5) 健康保険 健康保険

年金等 厚生年金（第2号）、雇用保険

(6) 宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用可能

(7) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL:03-3542-2511（内線2249・2138）

E-mail: kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ > (中央病院・東病院) > 採用情報 > レジデント募集情報

専攻医（基幹施設型・連携施設型）募集要項

① 応募資格

●専攻医（基幹施設型）

以下の全ての条件を満たした医師

- (1) 採用時に医師免許取得後3年目以降の者
- (2) 専門医制度において中央病院を基幹施設とする専門研修プログラムを選択した専攻医

●専攻医（連携施設型）

以下の全ての条件を満たした医師

- (1) 採用時に医師免許取得後3年目以降の者
- (2) 専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設の専門研修プログラムで研修中の専攻医

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数

中央病院 若干名

③ 出願手続

●専攻医（基幹施設型）

- (1) 出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

- (2) 締切日（必着）2022年9月15日（木）

- (3) 必要書類

ア．願書（所定様式・A3判）

イ．健康診断書（所定様式）（1年未満の診断結果）

ウ．上司または指導者の推薦状（所定様式）

エ．医師免許証の写し（A4判に縮小）（歯科部門は歯科医師免許証の写し）

オ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4判に縮小）または卒業証明書

カ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）

キ．手術経歴記載表（所定様式）

（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経歴がない場合は空欄に専門分野の経歴術式名・経歴数を記入すること）

ク．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

●専攻医（連携施設型）

研修開始の3か月前までに基幹施設、専攻領域、医師免許取得年、希望時期・期間をメールにてご連絡ください

必要書類は上記のうちア・イ・エ・オ・キ・クとなります

④ 選考方法

●専攻医（基幹施設型）

書類審査、筆記試験および面接試験（応募状況により一部省略有）

※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います

※一次選考の結果および試験の案内はEmail等により通知いたします

●専攻医（連携施設型） 面談

注：面談の日程は調整後、Email等により通知いたします

⑤ 選考日

●専攻医（基幹施設型） 2022年10月4日（火）

●専攻医（連携施設型） 随時

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室

東京都中央区築地5-1-1

⑦ 合格発表

選考日のおおむね1か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

●専攻医（基幹施設型）

3年間（2023年4月1日～2026年3月31日）を基本とし、各専門研修プログラムに則り定める

●専攻医（連携施設型）

研修コースにより異なる。

注：各学会の定める規定も考慮し調整を行う

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

⑩ 処遇等

※変更となる可能性もあります

(1) 身分 非常勤職員（医師）

(2) 勤務条件 週30時間（基本勤務：8時30分から15時30分）

※研修期間・コースにより宿日直勤務あり

(3) 給与 国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤医師及び研究員給与規程に基づく

【給与支給額（見込み）】350,000円/月額 ※各種手当は除く

(4) 諸手当 業績手当（賞与）、超過勤務手当、通勤手当、その他手当 ※各種手当は、状況により付与

(5) 健康保険 健康保険

年金等 厚生年金、雇用保険

(6) 宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用可能

(7) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL:03-3542-2511（内線2249・2138）

E-mail: kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ > (中央病院・東病院) > 採用情報 > レジデント募集情報

採用試験日程

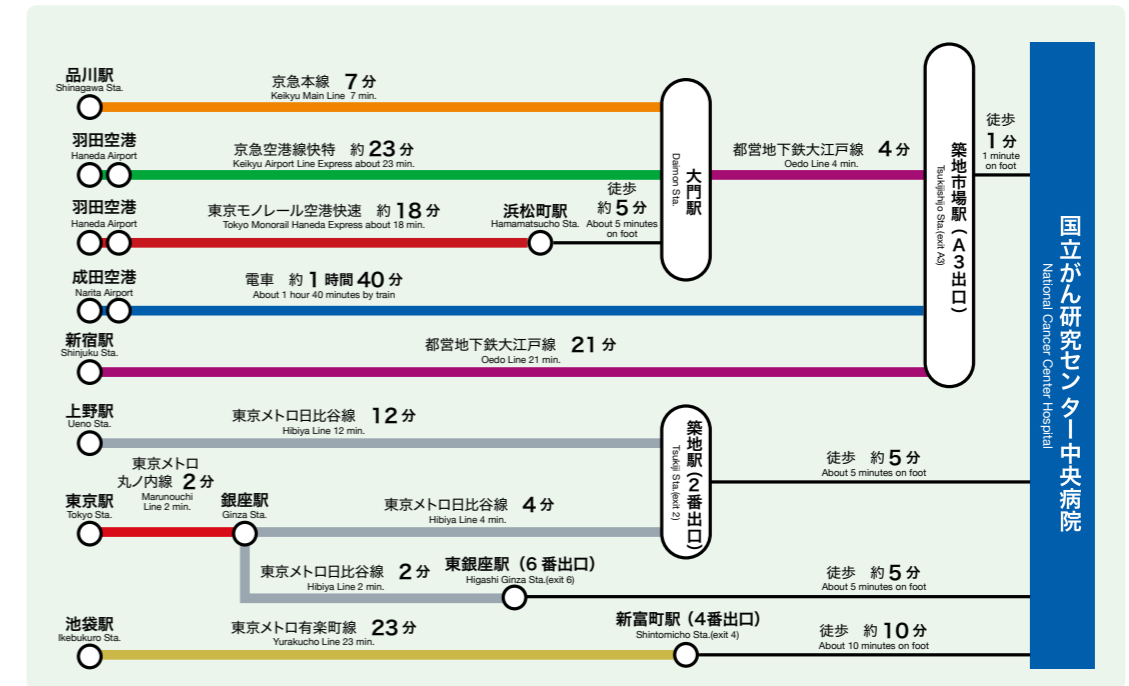
2023年度 中央病院 がん専門修練医・レジデント・専攻医 採用試験日程

試験の種類	出願書類締切日	選考日
がん専門修練医	2022年9月15日（木）	2022年10月5日（水）
レジデント （3年コース・2年コース・連携大学院コース・ 高度技能医コース） 専攻医（基幹施設型）		2022年10月4日（火）
レジデント（短期コース）＜4月開始＞	第1回：2022年10月19日（水） 第2回：2022年12月23日（金）	第1回：2022年11月2日（水） 第2回：2023年1月17日（火）
レジデント（短期コース）＜7月開始＞	第1回：2022年12月23日（金） 第2回：2023年4月上旬	第1回：2023年1月17日（火） 第2回：2023年4月
レジデント（短期コース）＜10月開始＞	第1回：2023年4月上旬 第2回：2023年7月上旬	第1回：2023年4月 第2回：2023年7月
レジデント（短期コース）＜1月開始＞	第1回：2023年7月上旬 第2回：2023年10月上旬	第1回：2023年7月 第2回：2023年10月

* 詳しくは募集要項をご覧ください。

交通案内

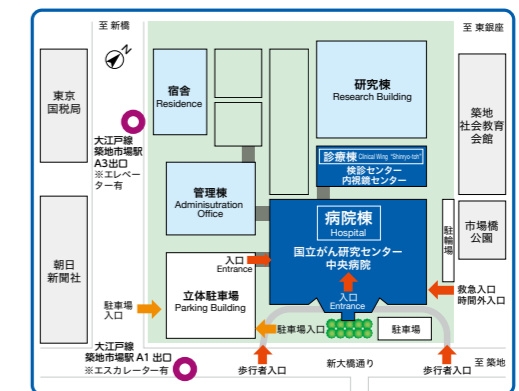
主要交通機関 Main Transportation



Map



建物配置図 Tsukiji Campus



- バス
・市01（都営）国立がん研究センター前バス停から徒歩3分
・業10/都03/都04/都05-1/都05-2（都営）築地三丁目バス停から徒歩5分
- 駐車場：394台（30分まで無料）
- Toei Bus
・3minutes walk from the bus stop in front of National Cancer Centers
・5minutes walk from Tsukiji San-chome bus stop
- Parking
394units (Up to 30 minutes free)

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
 TEL: 03-3542-2511 (内線 2249・2138)
 E-mail: kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>
 国立がん研究センターホームページ > (中央病院・東病院) > 採用情報 > レジデント募集情報



国立がん研究センター 中央病院
National Cancer Center Hospital

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/>